

第5章 その他の整備

第3章、第4章において本質的価値を構成する要素である石垣及び建造物の整備に関して記述してきたが、この章では戦後熊本城跡で整備されたその他の整備について、石垣、建造物以外の本質的価値を構成する要素に関わる整備とその他の整備とに分けて整理する。以下にそれらの概要や位置図等を記載する。

第1節 本質的価値を構成する要素に関する整備

I 土塁、切崖

熊本城跡には本来空堀や切崖であったが、安全性を確保するための法面保護や災害により崩壊した箇所への災害復旧を目的とした石垣整備がされている箇所が幾つかあり、以下に示す。

【本丸地区】

宇土櫓下空堀東面、棒庵坂石垣等については法面保護のための石垣整備を行った。

【三の丸地区】

砂薬師坂に沿った屋敷割を構成する土塁等は、明治以降に凝灰岩等を使用した石垣により替えられている。また、三の丸広場西側の崖面は公園整備や災害復旧による石垣などで保全されている。更に、三の丸地区北側崖面も三の丸史料公園整備の一環として、法面保護のための石垣整備を行った。

II 堀

【本丸地区】

唯一の水堀である備前堀には北側の西櫓御門への通路下に暗渠があって空堀と繋がっており、この空堀には数寄屋丸や平左衛門丸、飯田丸の一部からの雨水が流入している。この南側には堰が設けられ水位の調整を行い、増加した水は暗渠により坪井川に流入する構造となっている。

本丸と二の丸を区分する東側に空堀、薬研堀があり、空堀は昭和28年の熊本大水害の土砂の処分場として利用されている。近年の整備により空堀から薬研堀への排水溝が埋没しその機能を失い、常に水が貯まっている。今後水堀との誤解を受けないように旧状に復する必要がある。

【古城地区】

明治期に現第一高校内に古城堀から延びていた堀は埋め立てられており、堀に面した石垣にその痕跡を見ることができる。

堀は古城地区南西隅から旧城域の西側を石垣や土塁に沿って一丁目御門跡を経由して藤崎台南側まで続いていたことが判っているが、現在はほとんどが昭和初期頃から戦後にかけて埋め立てられ宅地化されている。石垣や道路の形状によりその位置や規模を辛うじて確認することができる。また、現在県立第一高校西側については、昭和28年の熊本大水害の土砂の処分場として利用され、その後昭和36年に古城堀端公園として整備された。そのさらに西側の土地は所有者の理解を得て特別史跡に指定され、昭和55年度から文化庁補助事業として公有化を図っている。公有化後は堀を復元する予定である。

現在の坪井川は昭和55・57年に発生した激甚な災害による災害復旧の一環として整備された。本来の石垣や護岸の石垣は盛土によって保護されている。

III 排水構造物

【本丸地区】

本丸区域の排水溝は安山岩を利用した石組みの水路と凝灰岩の板石を利用したU字型の水路に大別で

き、一部改修等も見られるが現在も機能している。各曲輪の排水は石垣や建物に沿って構築され、開渠及び暗渠の組合せにより内堀となる坪井川へ流入している。

現在の県道四方寄熊本線に沿って残る玉川（排水路）は棒庵坂下付近から厩橋までの区間で、棒庵坂下から熊本大神宮付近までは開渠で坪井川までは暗渠となっている。また、玉川は排水路として現在も機能しており、護岸改修や拡幅等の整備が実施されている。

【二の丸地区】

二の丸広場等の雨水は空堀や薬研堀に流入しており、薬研堀南端から現在の道路下に慶宅坂付近に抜ける石組みの排水路が残されており、現在の城彩苑西側を通り暗渠として坪井川まで繋がっている。

【三の丸地区】

昭和48年熊本博物館建設に伴う確認調査により、埋没していた石垣と排水溝が確認され、その排水遺構を利用した周辺整備を行った。

【古城地区】

坪井川に面した石垣には、かつての屋敷地から排水溝と思われる石組みを確認することができるが、明治初期から軍の管理下に置かれており、一部改修がされていることがわかる。

【千葉城地区】

城域を区分する旧坪井川河川敷が水路敷（現在も機能）として残されている。

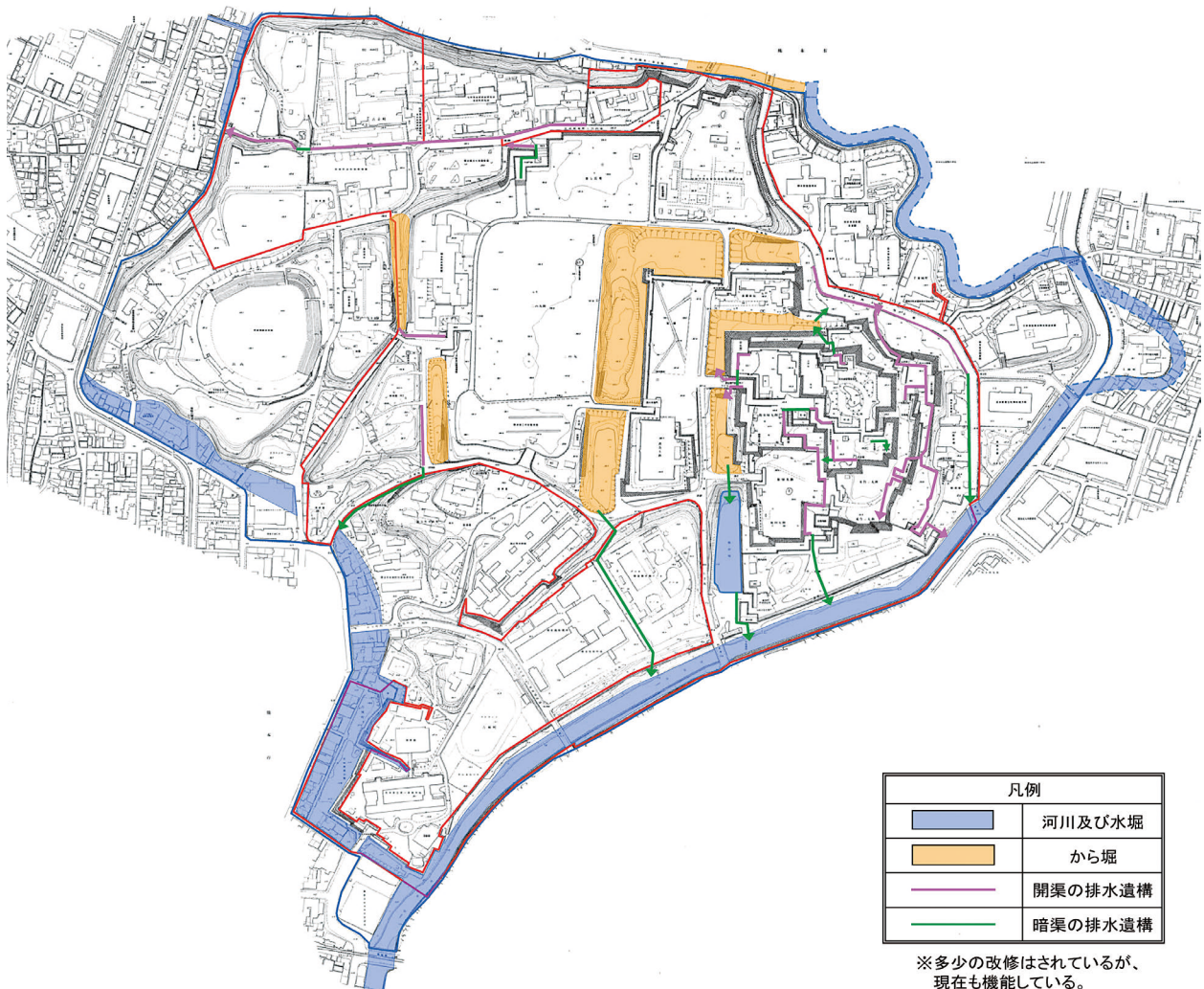


図 5-1 排水構造物

Ⅳ 井戸

【本丸地区】

かつて熊本城には120の井戸があったとされている。現在本丸地区には、13基の井戸が存在している。そのうち10基は近世から存在しているが、西出丸にある2基については公園整備の一環として本丸に残る井戸枠に倣い安山岩を利用した井戸枠を設置した。また、棒庵坂下の3基は、近代以降の整備による井戸である。

【二の丸地区】

二の丸はかつて重臣の屋敷跡であったことから、現在は9基の井戸が残されており、本来の井戸枠は残されていないが、そのうちの6基については、公園整備の一環として本丸等の遺構に倣い安山岩を利用して復元整備した。

【三の丸地区】

現在6基の井戸が存在するが、そのうち3基は近世から現存しており、旧細川刑部邸内にある3基については、移築復元に際し再現したものである。

Ⅴ 庭園

【本丸地区】

絵図等により庭園と確認できる場所は本丸御殿内の露地があり、大広間南側と北側に記載されている。本丸御殿大広間復元整備に伴う発掘調査により水槽（使用目的は不明）が確認されているが庭園としての石組み等の痕跡が確認できていない。大広間南側の露地は、平成20年本丸御殿復元整備に伴い再現した。

【三の丸地区】

平成5年に移築復元した「旧細川刑部邸」の庭園は旧庭（子飼）に倣い再現したものであるが、外庭は

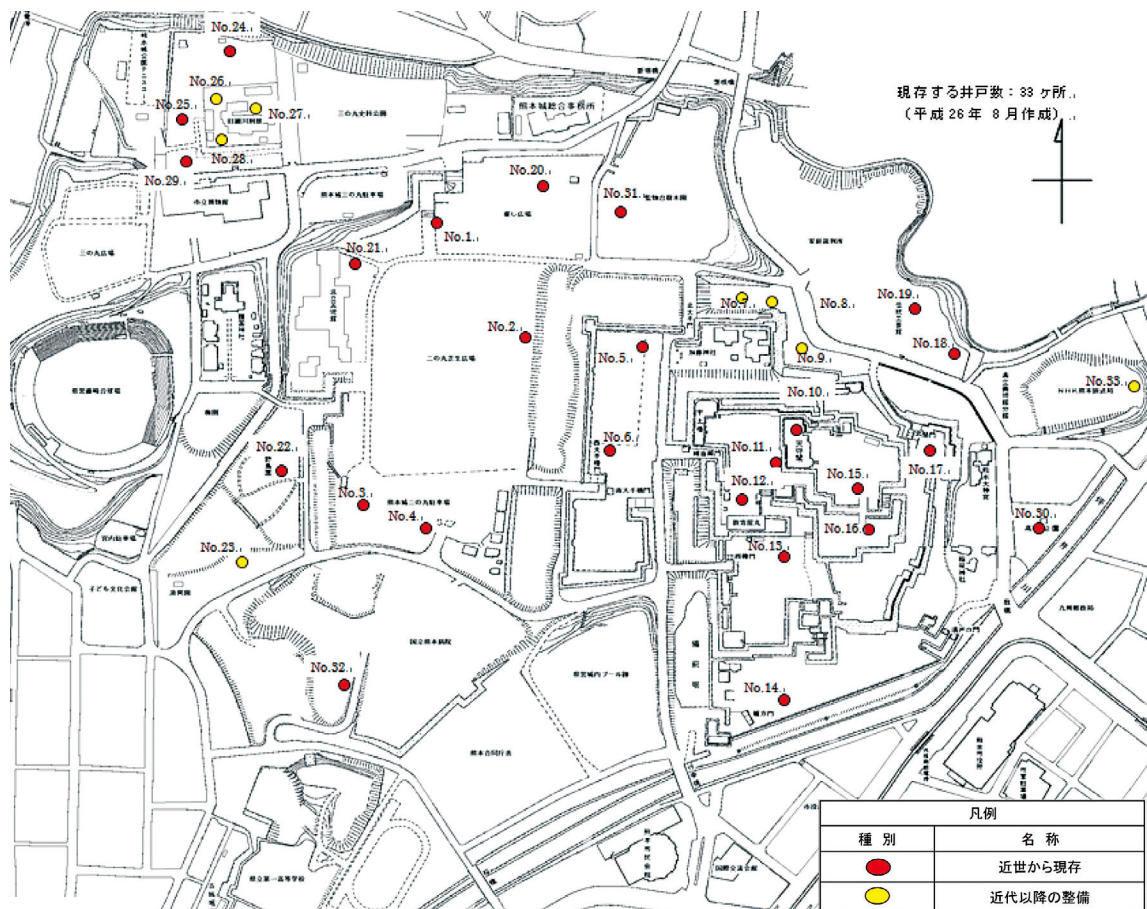


図5-2 井戸位置図

文政7（1824）年に二の丸御屋形（二の丸御殿）と同時期に池泉式庭園が描かれている「二丸庭中之図」（永青文庫所蔵）のイメージにて再現整備した。

VI 地下遺構

【本丸地区】

短期（第Ⅰ期）計画による西出丸一帯、飯田丸一帯、本丸御殿一帯の復元整備事業に伴う発掘調査において、歴史資料として復元根拠とした「御城内御絵図」（明和6年頃）の平面図にほぼ一致する建物や門の礎石及び石列や等が検出された。これらの遺構は建造物等の復元整備に先立ち、山砂等により養生を行い現状保存している。なお、本丸御殿の闇御門の礎石については、遺構そのものを再利用して復元柱を据え付けている。

短期（第Ⅱ期）計画の馬具櫓及び続塀、平左衛門丸塀の復元整備事業に伴う発掘調査においても、櫓の礎石や雨落ち石などの遺構を確認しており、また、続塀の控石柱を根固めする石の抜取痕が検出された。馬具櫓の雨落ち石はそのまま再利用し、礎石及び続塀控石柱の抜取痕については養生により現状保存した上で整備している。

VII 遺構の平面表示

（1）奉行丸整備

短期（第Ⅰ期）計画による西出丸一帯復元整備事業において建造物復元に至っていない部分については礎石を現し、壁部分については木柵により整備した。また、かつての櫓跡について説明板により解説した。

（2）本丸御殿跡

短期（第Ⅰ期）計画により復元した本丸御殿（大広間、大台所、数寄屋）以外の部分については、本丸御殿殿舎群全体の配置や規模が理解できるよう外郭表示などによる史跡整備を行った。

第2節 その他の整備

ここでは、熊本城跡に関する公園整備や活用のための整備についてまとめる。それらを「園路・広場等」、「管理・便益施設」、「インフラ設備」に分類し、位置図とともに載せる。

公園整備については、国土交通省の補助金等も活用された。

第1項 園路・広場等

I 園路等

【本丸地区】

熊本城の正面に当たる西大手門からの天守閣付近までの経路（登城）等は築城当時の様子をそのままとどめていることが確認できる。数寄屋丸御門内から腰掛櫓前付近、闇通路内、壺之開御門から本丸三階櫓下等は明治初期に師団司令部等への通路整備等が行われており、盛土整地により一部の石段等は現通路下に埋没している。

有料区域内の舗装については、土系舗装若しくは面砂利敷きを基本としているが、二の丸駐車場から来園者の主要な通路である西大手門・南大手門から数寄屋丸に至る園路及び闇御門から本丸御殿大広間に至る経路については平成20年度以降土色舗装としている。

なお、不開門坂道については国土交通省まちづくり交付金事業（平成19年度）、西大手門・南大手門から数寄屋丸に至る園路等については国土交通省社会資本整備総合交付金事業（平成22年度）の一環として整備している。

【二の丸地区】

市道（京町1丁目宮内第1号線）の歩道部カラー舗装については国土交通省まちづくり交付金事業（平成19年度）の一環として実施した。

【三の丸地区】

新町の札の辻を基点とした豊前街道は薬師坂から藤崎宮前、漆畑、二の丸屋形前、百間石垣、新堀御門を出て京町、出町を通り植木町方面に至る。これらの街道の一部は公園の園路や市道として再整備した。

【古城地区】

慶宅坂は近現代に周辺整備と合わせて整備されているがほぼ原形を留めている。現在の舗装については平成22年度に国土交通省社会資本整備総合交付金事業の一環として土色舗装としている。

II 広場

【本丸地区】

肥後名花園

肥後名花園は、第6代肥後藩主細川重賢が家臣の精神教育の目的で園芸を奨励し、現在までその厳格な栽培法が伝えられている肥後名花（肥後椿、肥後芍薬、肥後菖蒲、肥後朝顔、肥後菊、肥後山茶花）を昭和47年から2年の歳月をかけて熊本城竹の丸に設置し、現在に至っている。

奉行丸・西出丸

熊本城第I期復元整備事業の一環として、平成10年度に文化庁補助「地方拠点史跡等総合整備事業」として採択され、未申櫓台石垣保存修理に着手し、平成11年度から南大手門及び塀、戌亥櫓及び西出丸塀、未申櫓、元太鼓櫓及び奉行丸塀、奉行丸東南側塀の復元整備を進め、平成17年度に奉行丸内部の平面整備（排水設備や芝張り及び門・塀当）を行った。

不開門北側緑地¹⁾

昭和48年表土が流出して瓦礫等の露出が目立っていたため整備した。

【二の丸地区】

二の丸芝生広場、催し広場、野鳥園

昭和42年度から国庫補助金（建設省公園緑地課所管）を受けて二の丸地区整備計画に着手し、公園計画の策定は熊本大学工学部の黒田正巳教授に依頼した。用途区分を駐車場、憩いの広場、植物園、美術館、博物館用地として現状変更許可を得た。同年度より工事着手し、昭和53年度までに催し広場と芝生広場として整備され、一般に開放された。

清爽園（明治19年）

かつて花畑邸（陽春亭）の築石等を利用して、石組の沢が明治19年に整備された。その水源として横井戸が掘られたと思われる。熊本市の水遺産に指定されている。

【三の丸地区】

三の丸広場

昭和49年度に事業認可され、昭和60年度まで国庫補助金（建設省所管）を受けて三の丸広場等の公園整備を実施した。

三の丸史料公園

平成元年度に化血研所有地を取得し、「熊本城整備に関する報告書（三の丸地域の整備）」の答申に沿って「三の丸史料公園」として整備に着手し、平成2年度から平成5年度までに「旧細川刑部邸の移築復元」等の整備を実施した。なお、未だ整備されていない部分については、現在三の丸第2駐車場として暫定整備した。その整備の中で稲妻形の通路の再現も行った。

梅園

護国神社南側に昭和46年二の丸公園整備の一環として建設省補助を受けて整備した。

宮内地区

この地区についても昭和49年に三の丸広場等と同時に事業認可されたが、用地取得が進まず現在も継続事業となっている。

【古城地区】

古城堀端公園

昭和28年の熊本大水害の土砂の処分場として利用され、その後昭和36年に古城堀端公園として整備した。

【千葉城地区】

高橋公園

熊本市の近代化（上水道敷設・市電敷設・歩兵第23連隊渡鹿移転）に大きく貢献した第7代熊本市長・高橋守雄氏の業績を記念して、昭和47年に整備した。（戦前第六師団長舎があり、正門の石門は当時のまま）公園内には旧市庁舎の玄関部分を移築した。

千葉城公園

平成4年、平成元年市制100周年を記念して発足した坪井川総合環境整備事業の一環として、千葉城公園まちの広場を整備した。

Ⅲ 駐車場

二の丸駐車場

昭和42年から昭和43年にかけて二の丸公園整備の一環として国庫補助金（建設省公園緑地課所管）を受けて整備した。それまで西出丸にあった駐車場が移設された。

三の丸第1駐車場

昭和58年度に三の丸公園整備の一環として国庫補助金（建設省所管）を受けて整備した。

三の丸第2駐車場

平成20年度桜の馬場整備計画に伴い、熊本城内プール跡地に暫定整備されていた桜の馬場駐車場の機能に移転する形でアスファルト舗装により暫定的に整備を行い、平成21年4月より熊本市営駐車場条例に基づく有料駐車場としている。それまでは自治省の「ふるさとづくり特別対策事業」の一環として、化血研用地を熊本市が取得後、平成4年から平成5年にかけて整備し、平成5年に開催した地方博覧会「火の国フェスタ」の会場や臨時駐車場として利用していた。

シャトルバス乗降場

平成23年の桜の馬場整備に伴い、西出丸にシャトルバス乗降場を整備した。平成22年度国土交通省社会資本整備総合交付金事業の一環として整備した。

凡例	
①	四方寄熊本線（県道）
②	京町1丁目宮内第1号線
③	桜町第2号線
④	二の丸第1号線
⑤	桜町新町1丁目第1号線
⑥	新町2丁目第5号線
⑦	古城町第1号線
⑧	古城町第2号線
⑨	新町2丁目古城町第1号線
⑩	宮内古京町第1号線
⑪	新町3丁目島崎7丁目第1号線
⑫	段山本町第2号線
⑬	段山本町第3号線

②～⑬は市道

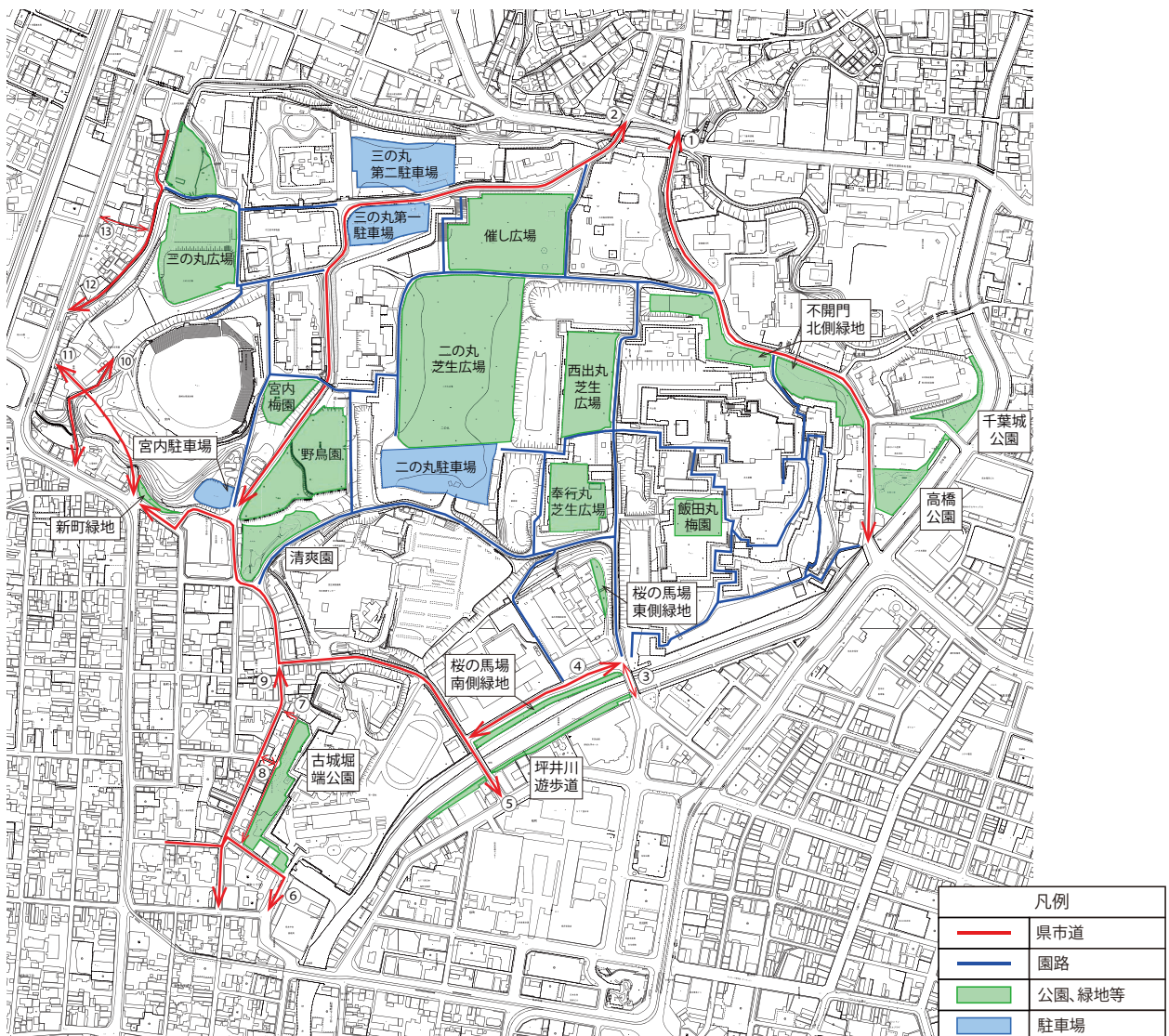


図5-3 緑地・駐車場・園路・市道の図

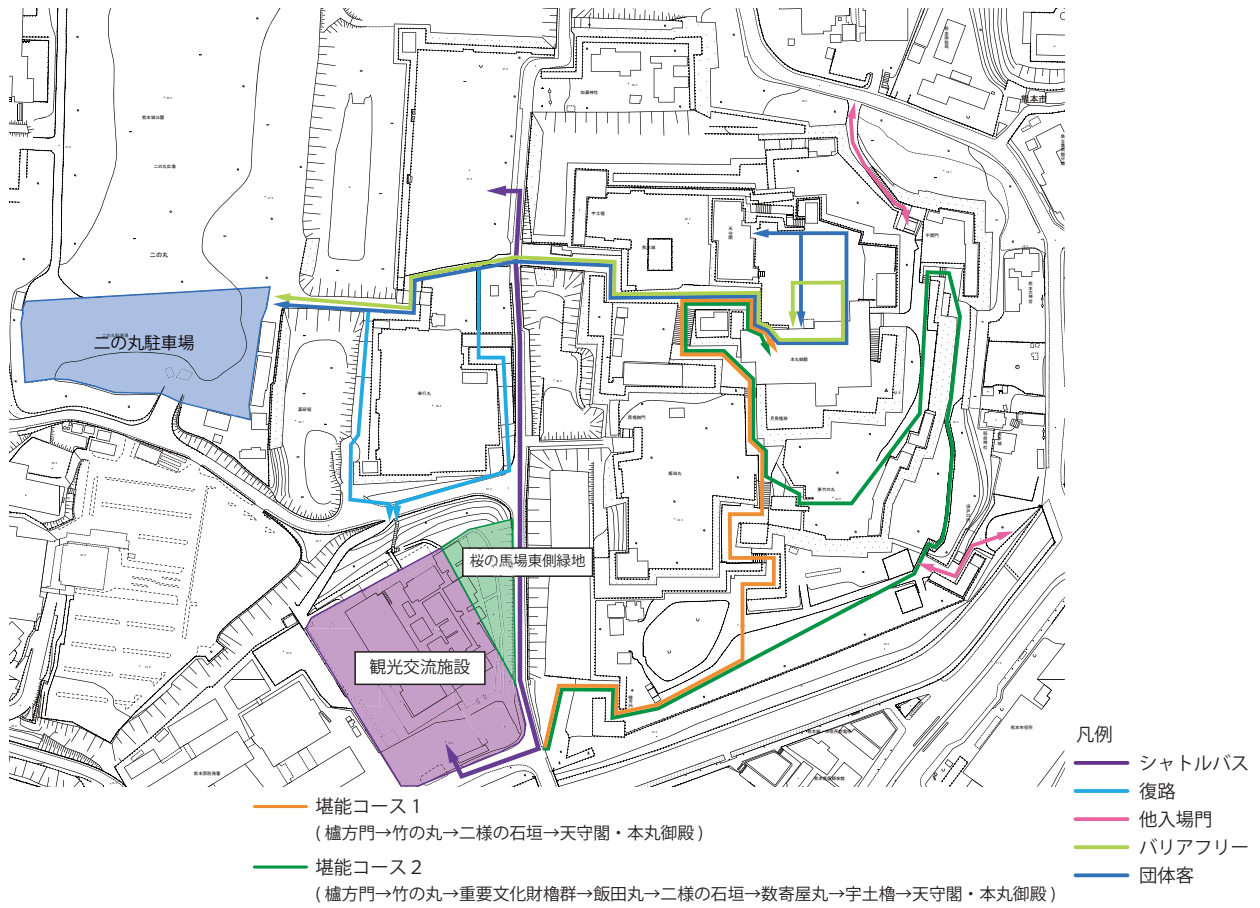


図 5-4 観光客等の動線（園路整備等）図

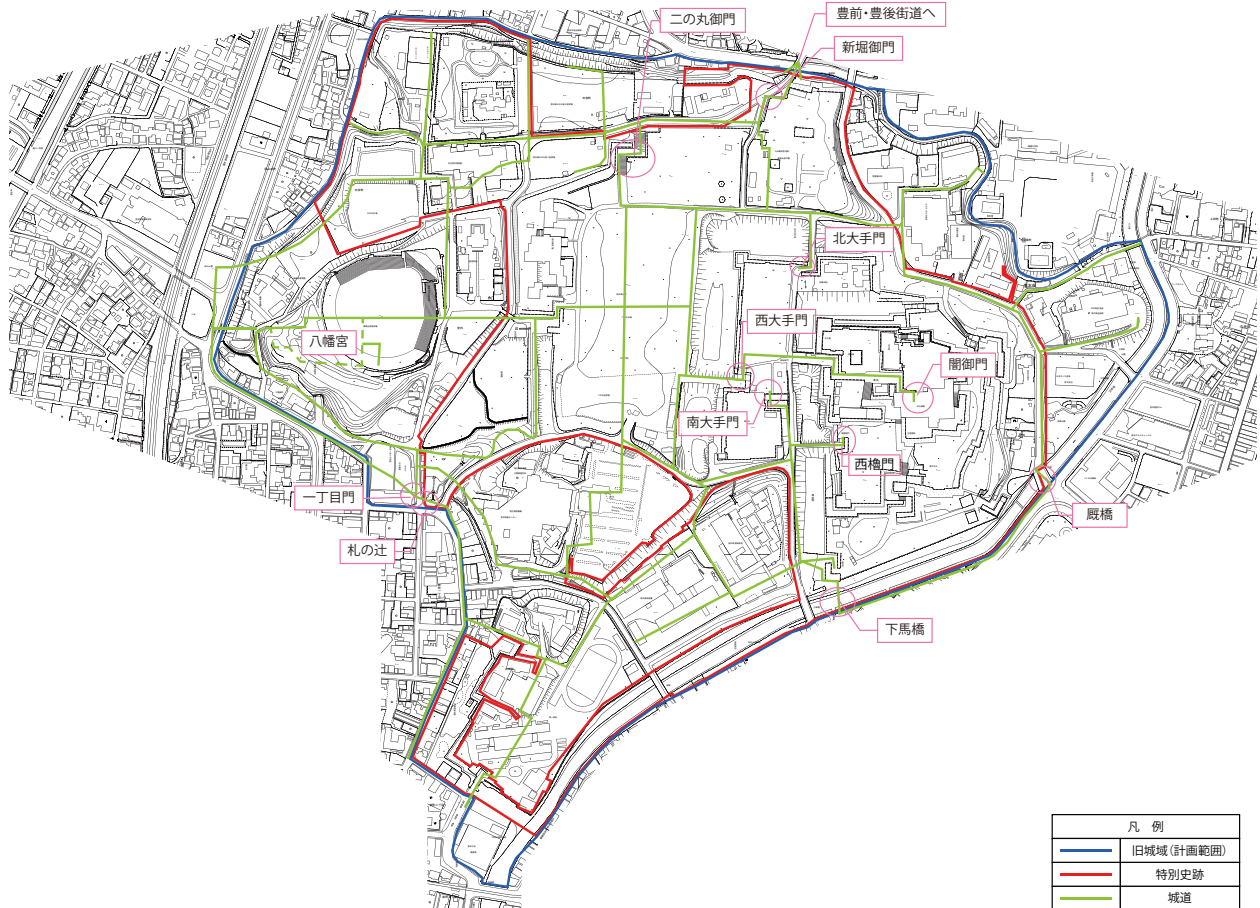


図 5-5 旧城域内動線図

第2項 管理・便益施設

I 説明板・案内板

説明板は城域内に72箇所設置している。そのうち本丸地区に47箇所、二の丸地区に6箇所、三の丸地区に4箇所、古城地区に6箇所、千葉城地区に9箇所となっている。ここからわかるように本丸地区に集中している。また、説明板の仕様も本丸地区については平成15年に作成されたサイン計画に基づき色、形状がほぼ統一してきているが、その他の地区についてはサイン計画後の改修等が進んでいないため、様々な仕様のもが見られる。

案内板は城域内に67箇所設置している。説明板同様に本丸地区に多い傾向がある。案内板は城内のルートを示すものや、観光案内、駐車場案内などに分類できる。案内板の仕様については90%以上が平成15年作成のサイン計画に合致しており、一定の統一感が見られる。

なお、本丸地区を中心とした説明板・案内板については、平成23年の桜の馬場整備に伴い四ヶ国語（日本語・英語・中国語・韓国語）表記へ改修した。

里程元標

豊前、豊後、薩摩街道及び日向往還の基点となる場所に整備した。

II ガイダンス施設・体験学習施設

天守閣（博物館分館）

昭和35年9月に熊本城天守閣落成と同時に熊本博物館分館として発足した（国指定重要文化財細川家舟屋形もその時より展示）。平成4年には天守閣の災害復旧工事に併せて展示もリニューアルした（展示テーマは、1階が熊本城と加藤家、2階が細川家、3階が西南戦争）。

<参考>熊本博物館の歴史について

昭和27年2月 宇土櫓内に熊本博物館第2館が開館²⁾

昭和27年6月 旧第六師団司令部跡に熊本博物館第1館が開館

昭和36年2月 花畑町に熊本博物館本館移転再開館

昭和53年4月 三の丸地域に現在の博物館本館移転オープン

本丸御殿（大広間・大台所・数寄屋）

平成20年4月本丸御殿の中心となる大広間棟、大台所棟、数寄屋棟を復元整備し、歴史的・文化的価値の高い建物として公開すると共に、当時の武家社会が体験でき、伝統芸能や文化的行事に触れ参加できる、生きた歴史・文化の体験学習の場として活用するための施設として整備した。

この事業については、国土交通省まちづくり総合支援事業（平成19年度はまちづくり交付金）の体験学習施設として整備した。

桜の馬場城彩苑 湧々座

平成9年度策定の熊本城復元整備計画におけるエントランスゾーンとの位置付けに基づき、平成23年の九州新幹線開業に合わせて県営熊本城プール跡地に熊本市初のPFI事業として、歴史文化体験施設及び総合観光案内所を整備した。

III 便益施設

1 公衆便所

戦後の熊本城内の公園整備に伴い本丸地区、二の丸地区、三の丸地区、古城地区、千葉城地区の公有地に、現在16箇所設置している。本丸地区に7箇所、二の丸地区に5箇所、三の丸地区に3箇所、古城地区に1箇所あり、千葉城地区には設置していない。そのうち7箇所に多目的トイレを設置し、手すり設置や段差解消などのバリアフリー化を目的とした整備を行った。

近年では築城400年（平成19年）に向けて整備方針を作成し、年次計画に基づき飯田丸、天守閣前トイレの建替え、奉行丸及び本丸御殿のトイレを整備した。その後も築20年以上経過し、近年改修されていない数寄屋丸及び催し広場のトイレの建替えと100%洋式化に向けた整備を行っている。建物外観は基本壁上部を白漆喰調で、下部を黒色下見板張り、屋根瓦を燻し銀色とした仕様で整備を行っているが、以前のものでは外壁が石張りとなっているもの等もある。

2 売店

宇土櫓前売店

昭和35年に宇土櫓前に熊本城顕彰会休憩所、昭和38年には天守閣前休憩所が設置され、平成2年に天守閣前売店、平成3年に宇土櫓前売店にそれぞれ改築した。その後本丸御殿大広間復元整備に伴い大広間棟の位置にあった天守閣前売店は撤去（その間天守閣前仮設売店が設置）し、現在は休憩所機能を外観復元した長局櫓内に、物品販売等の機能を宇土櫓売店に集約するために増築含めた改修を行い現在に至っている。なお、宇土櫓前売店改修及び長局櫓復元整備（1箇年のみ）については国土交通省まちづくり交付金事業（平成19年度）の一環として実施した。

二の丸売店

西出丸にあった売店を平成5年現在位置に移転、整備した。

桜の小路

熊本の特産品や郷土料理を提供する飲食・物販施設として、平成23年の九州新幹線開業に合わせ整備した。

3 休憩施設

長局櫓

前述の宇土櫓前売店にて記載のとおり。

その他

三の丸広場・三の丸史料公園や古城堀端公園内には東屋を整備した。

4 ベンチ

ベンチは城域内に約130基設置している。そのうち56%程度が本丸地区に設置しているが、その他の地区については設置数に大差はない。仕様については、木製、木・石製、木・鉄製、鉄製、石製などがある。傾向としては木製の座面に石製の足のものが多く、約半数を占める。また、本丸地区には地元工業高校寄贈の鉄製ベンチも数多くあり、全体的にはばらつきがある。

5 水飲み場

水飲み場は城域内に21箇所設置している。本丸地区に7箇所、二の丸地区に4箇所、三の丸地区に7箇所、古城地区に2箇所、千葉城地区に1箇所ある。水飲み場の仕様は様々で統一感はあまりない。ただし、二の丸・三の丸地区は公園整備で設置されているものが多く、二の丸・三の丸地区は同じ仕様のものになっている。

IV 維持管理施設

1 料金所

(1) 頬当御門^{*11}

昭和36年の有料化に伴い門外に料金所を設置した。昭和38年には現在の位置に冠木門と料金所建物が整備された。その後管理詰所が門内左奥に設置されていたが、平成23年に蟻害により倒壊寸前となったため、門内右奥に現在の仮設管理詰所を設置した。

(2) 須戸口門^{*11}

昭和48年には、それまで管理用門と柵にて閉鎖していたが、入園者へ一般開放するため切符売り場と

門・柵等を設置した。

(3) 櫓方門

櫓方会所（現加藤神社敷地）にあった建造物が昭和29年5月に半崩壊し、昭和32年竹の丸にて移築復旧した。その後昭和35年に現在の位置に更に移築したものを現在も活用している。

(4) 不開門^{*12}

昭和36年有料化に伴い門内に料金所を設置した。昭和48年の須戸口門整備に伴い不開門は閉鎖され、昭和53年に工事を伴う発掘調査を行った上で坂道復元工事に着手、54年度に完了。その後現在の位置に再び料金所を設置した。

2 門

西櫓御門^{*11}

明治10年の西南戦争後、門の軸部のみはそのままに、上部櫓を取り除かれて高麗門となったと推定される。昭和30年度に親柱下部が腐食し、前方に傾斜し、屋根野地など屋根裏の雨漏れが直ちに軸部材を腐食させている状態であったため、文化庁補助事業として解体修理が行われた。その後、短期（第Ⅰ期）復元整備事業に伴い解体保存した。短期（第Ⅱ期）計画の一環である西櫓御門及び百間櫓復元整備事業により復旧する計画である。

埋門

市政100周年記念事業として、本来の櫓門形式でなく冠木門形式にて再建した。

3 管理施設

管理事務所・本丸詰所・二の丸詰所

昭和35年天守閣再建と同時に天守閣前広場に管理事務所を設置した。平成2年数寄屋丸二階御広間復元整備に伴い事務所機能を二階御広間に整備・移転し、平成11年熊本城総合事務所に組織改編と共に現在の古京町別館内に移転し、現在に至る。また、二の丸、三の丸第1、三の丸第2、宮内の各駐車場敷地内にも整備に伴い管理詰所を設置している。また、昭和35年に本丸詰所、昭和48年に二の丸詰所を設置し、熊本市管理区域の除草、清掃等の日常維持管理を行っている。

4 車止め

車止めは城域内に30箇所設置している。そのうち43%はコンクリート製擬木になっている。ただ、それ以外のものは箇所毎に仕様・形態が異なっている。

5 防護柵

防護柵は城域内に80箇所程度設置している。種類はコンクリート製の擬木柵、木柵、竹柵、鉄柵である。全体の95%は擬木、木、竹などの木系のものに統一されている。

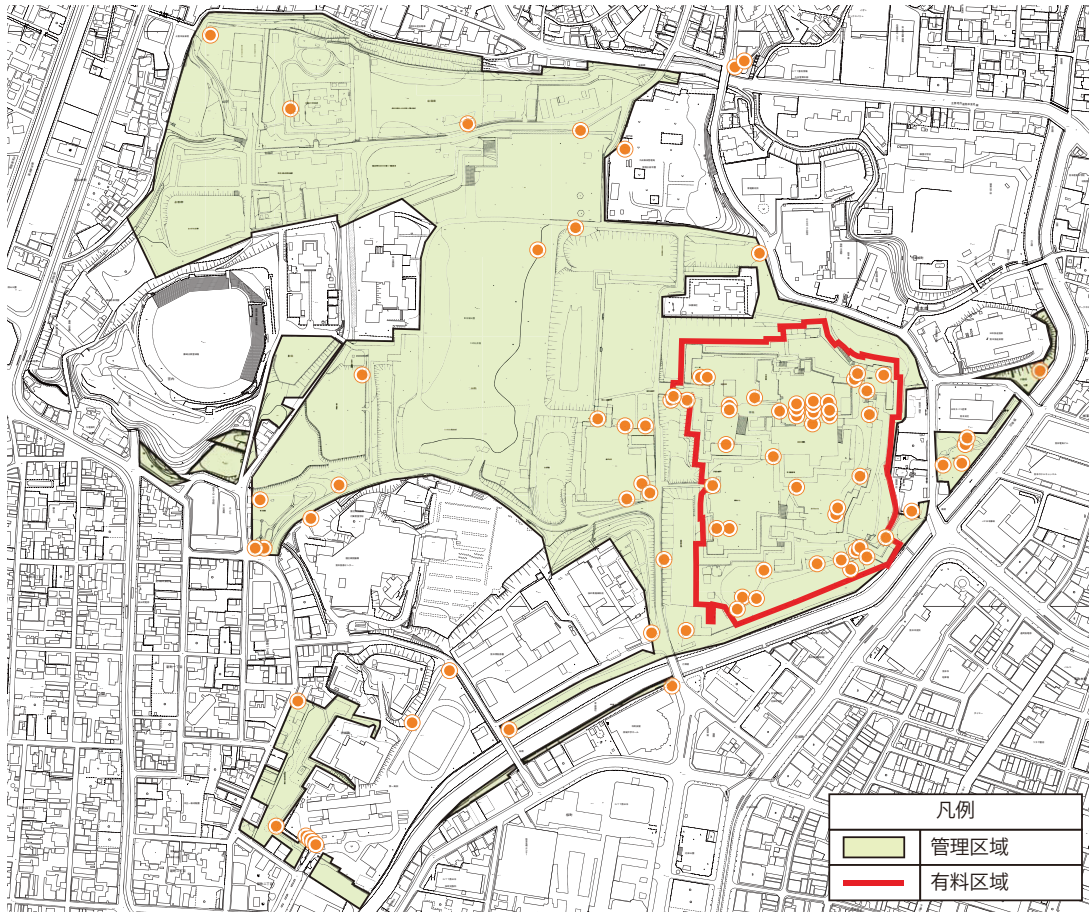


図 5-6 説明板分布図

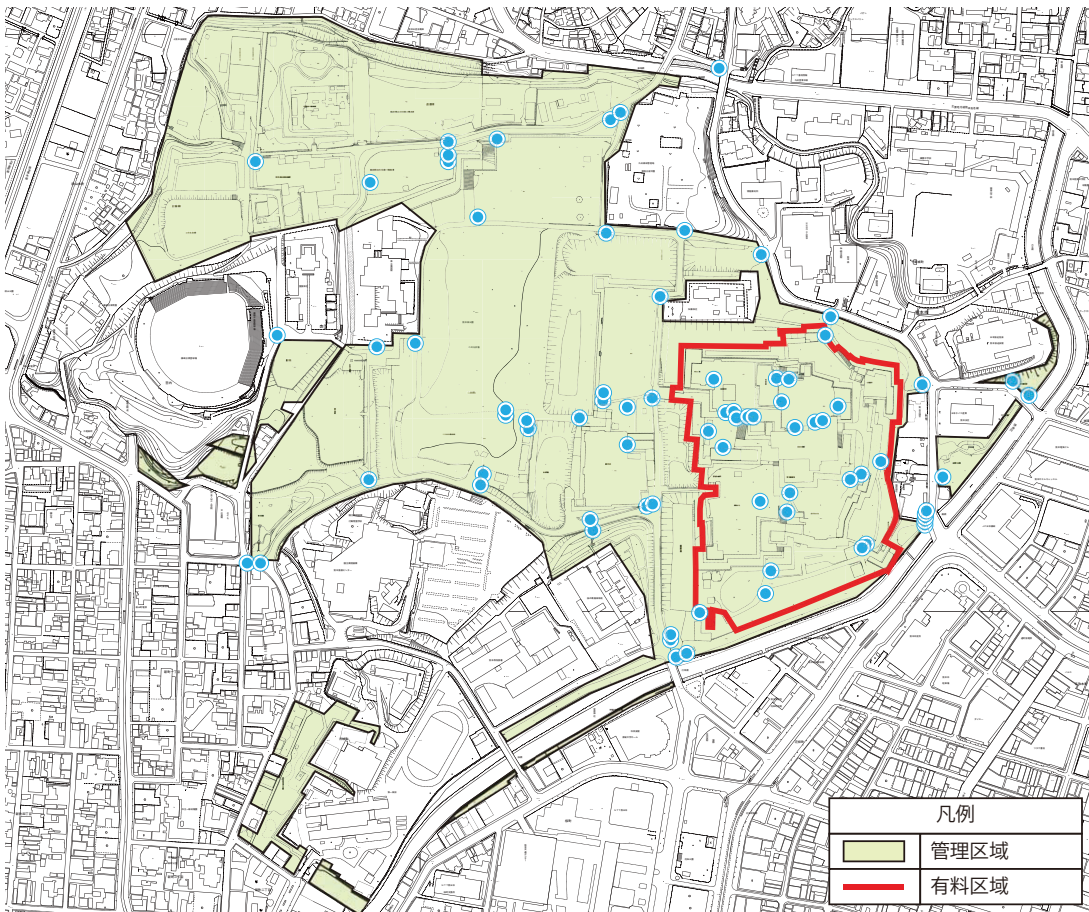


図 5-7 案内板分布図

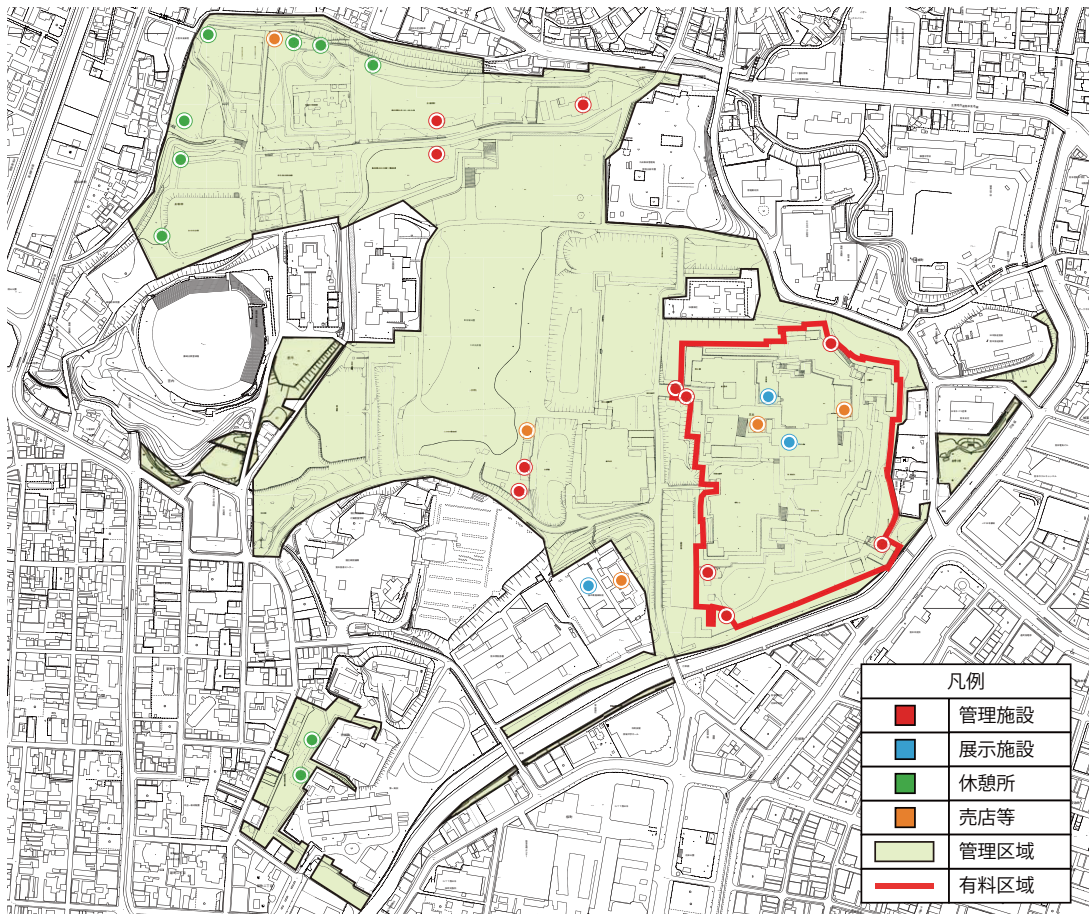


図 5-8 便益施設分布図

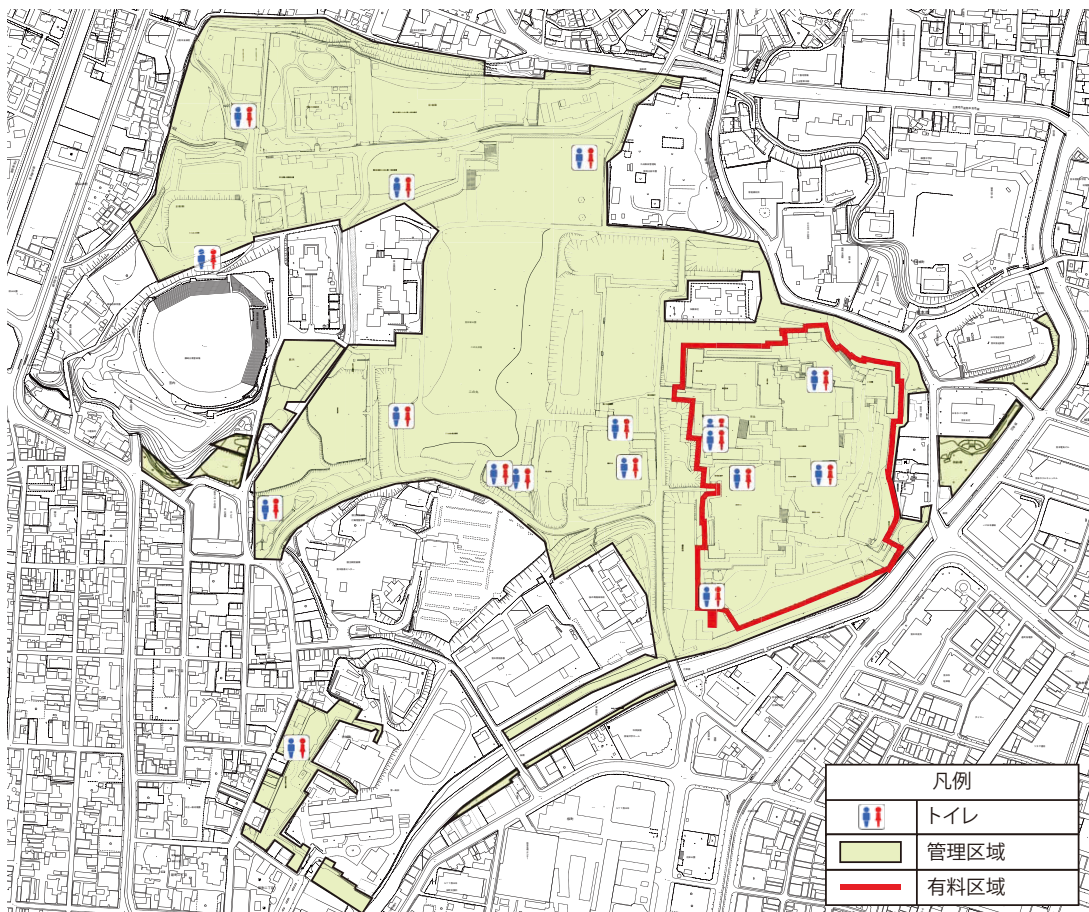


図 5-9 トイレ分布図

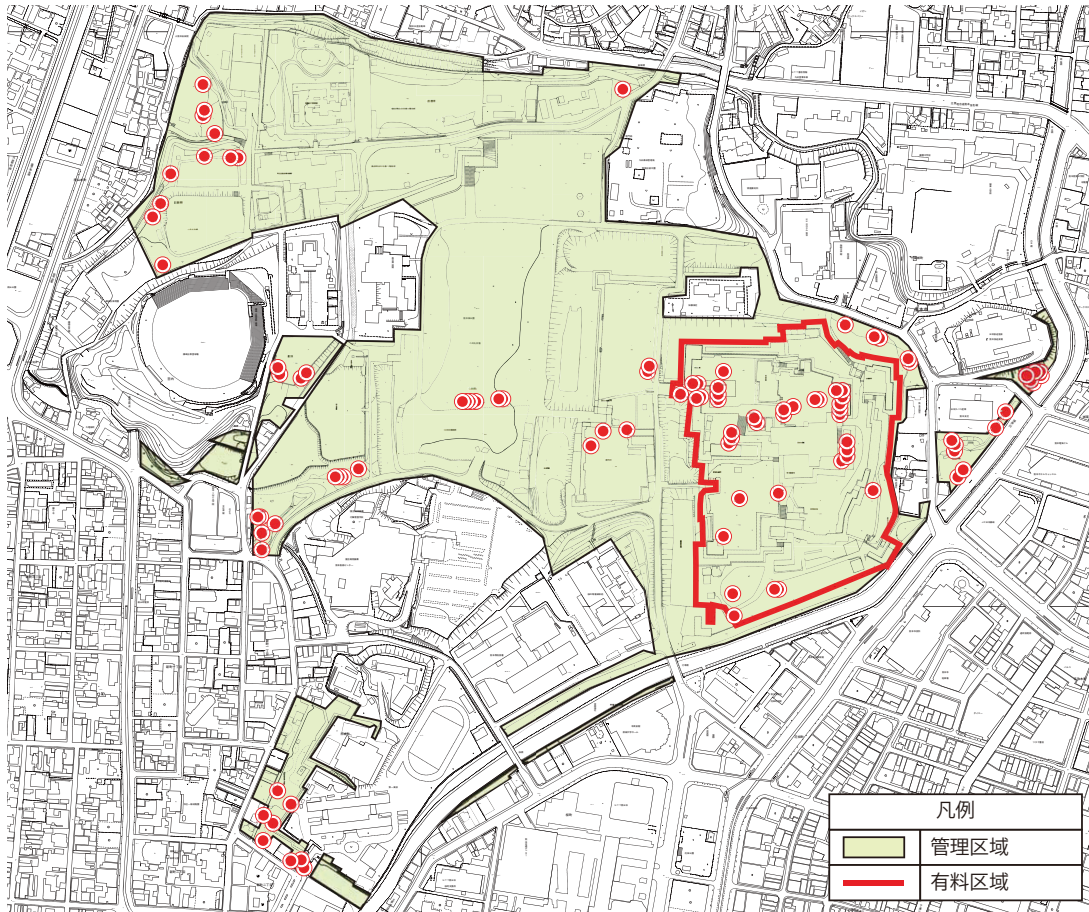


図 5-10 ベンチ分布図

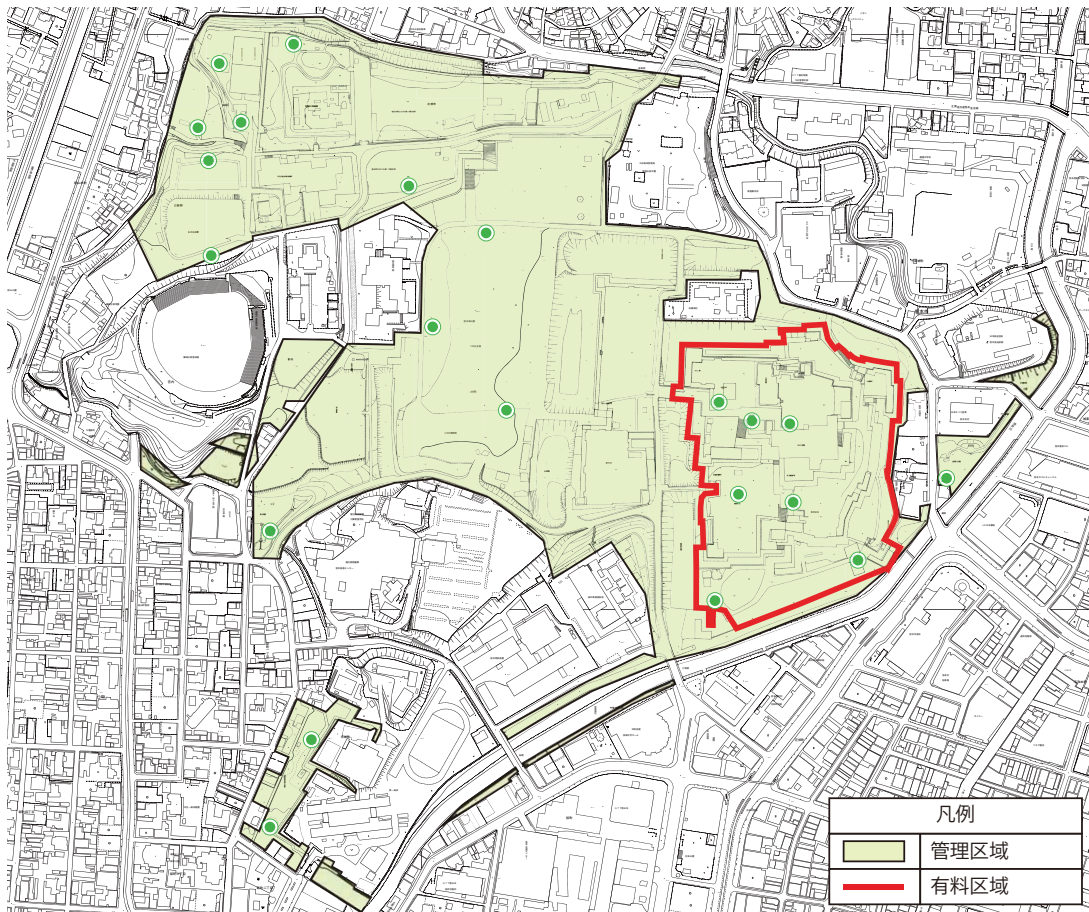


図 5-11 水飲み場分布図

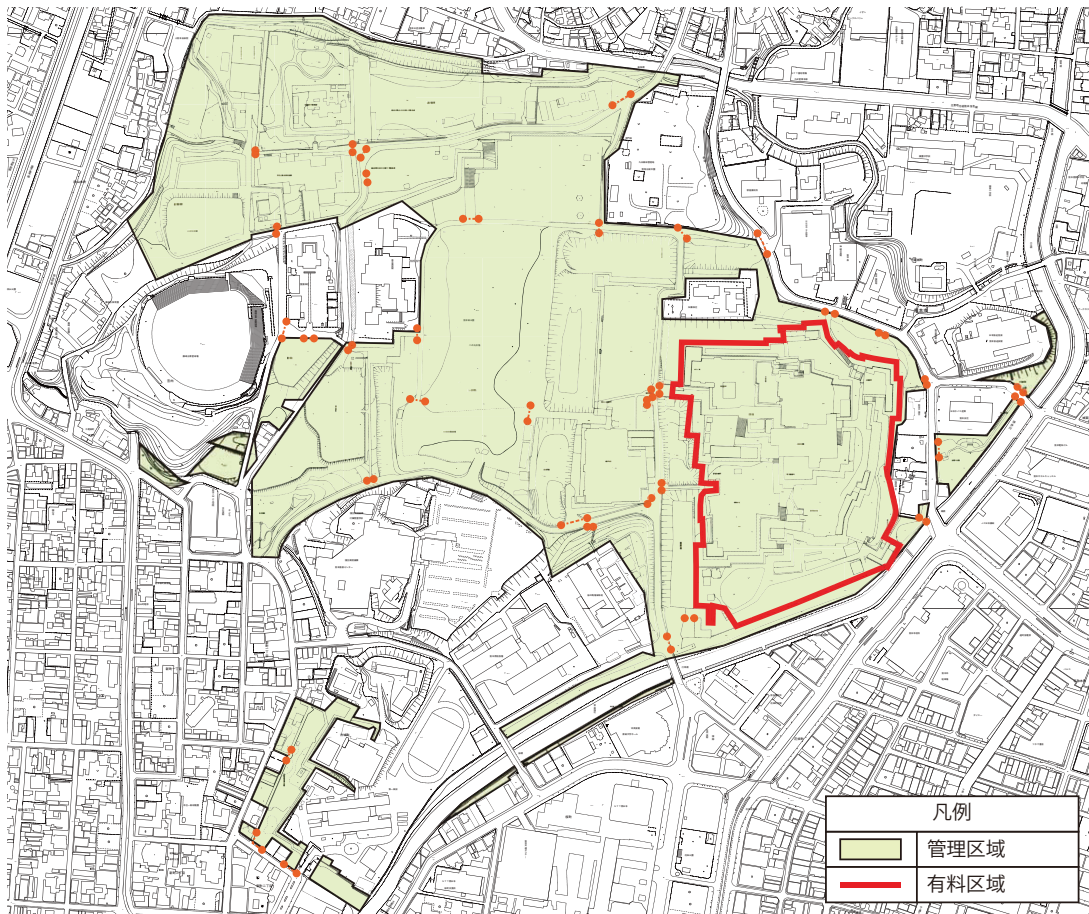


図 5-12 車止め分布図

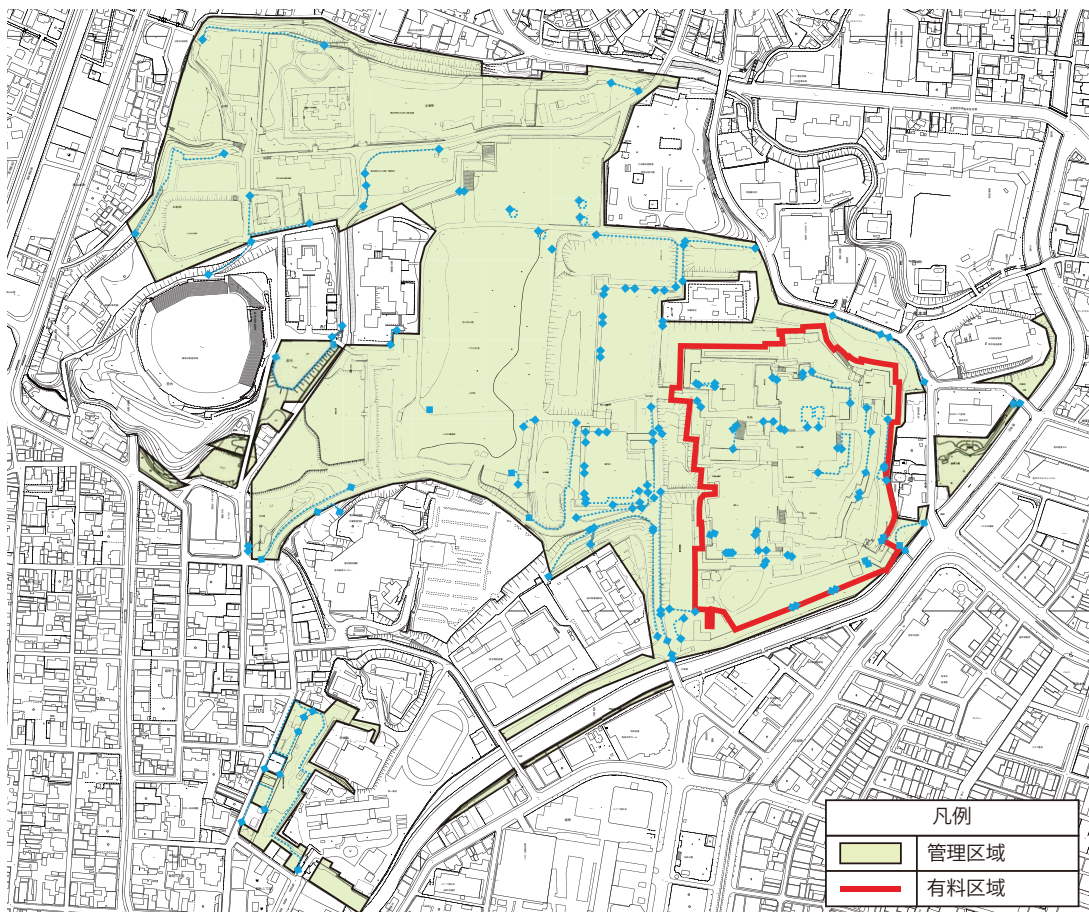


図 5-13 防護柵分布図

第3項 インフラ設備

I 防災設備

天守閣、数寄屋丸二階御広間、飯田丸五階櫓、本丸御殿（大広間・大台所・数寄屋）などの再建及び復元整備において消防法に基づく消火設備等の防火設備を設置した。また、重要文化財建造物についても昭和37年から昭和40年にかけて文化庁補助事業（防災施設工事）として消火設備及び自動火災報知機が設置され、埋設配管等が整備された。その後、平成8年から平成10年にかけて文化庁補助事業により建造物防災施設改修を実施した。以下に消防設備の設置時期や現状について現況調査等により判明した内容について示す。

（1）消火・消防設備（図5-20）

地下式消火栓

昭和37年に重要文化財建造物用に長堀除く12箇所を設置され、平成15年本丸御殿復元整備を機に①頬当御門～数寄屋丸②西櫓門～東竹の丸～平櫓③竹の丸の3ルートの配管や装置をほぼ全面的に更新し、現在17箇所を設置している。

屋内消火栓設備

天守閣の設置年は不明であるが、平成19年に改修した。また、数寄屋丸二階御広間・飯田丸五階櫓・西出丸一帯（南大手門・西大手門・元太鼓櫓・未申櫓・戌亥櫓）・本丸御殿大広間復元整備時に設置した。なお、重要文化財建造物については設置義務がないが、宇土櫓は昭和38年に設置され、平成11年に改修した。

地下水槽（消火・放水銃）

地下式放水銃及び消火栓設置の際に消火栓用水槽として、本丸地区の数寄屋丸（水量200m³）、竹の丸、西出丸、二の丸地区の監物櫓前に地下式水槽が4箇所及び平成20年復元整備した長局櫓内に地上式水槽1箇所を設置した。

地下水槽（水利）

昭和40年に水量60m³が本丸地区東竹の丸のそれぞれの重要文化財櫓群前2箇所、40m³を二の丸地区の監物櫓前1箇所に設置した。また、平成15年には新たに本丸地区の天守閣前と平左衛門丸に40m³を2箇所、合計5箇所に地下水槽（水利）を設置した。

放水銃設備

迅速な初期消火と延焼防止のため、平成8年から平成10年にかけて文化庁の補助事業として、数寄屋丸ポンプ室建替と竹の丸櫓方門ポンプ室・貯水槽及び監物櫓ポンプ室・貯水槽を新設すると共に、①宇土櫓②数寄屋丸③東十八間櫓～平櫓④源之進櫓～田子櫓⑤長堀⑥監物櫓を対象とする6系統のポンプ・配管・装置類を設置した。また、平成14年には西出丸一帯の復元整備に伴い西出丸ポンプ室・貯水槽を新設し、ポンプ・配管・装置を新たに設置し、平成20年には本丸御殿復元に伴い配管・装置類を増設した。

II 警報設備

（1）自動火災報知設備（図5-21）

再建及び復元建造物には建設時にすべて設置されているが、天守閣は昭和49年に設置され、受信機は天守閣前にあった管理事務所に設置されていたと考えられる。平成2年に数寄屋丸二階御広間復元整備に伴い二階御広間が熊本城管理事務所となったことにより同所に受信機を新設し集約した。その後平成3年天守閣改修の際に地中幹線を更新し、平成5年には展示改修に伴い改修した。その後、平成16年にはより正確に火災位置を特定できるR型受信機を導入すると共に屋外幹線を更新した。

なお、重要文化財建造物については、昭和36年に自動火災報知設備の設置義務が生じ、文化庁補助事業として昭和37年から昭和40年にかけて設置し、平成11年に改修した。

(2) 非常警報設備

非常ベル

自動火災報知設備と同時に設置した。

放送設備（図5-25）

昭和35年天守閣再建と同時期に天守閣前に新築された熊本城管理事務所に放送室があることから、当初業務用として管理事務所にアンプを設置し、建物及び屋外の数箇所にスピーカーを設置していたと考えられる。平成2年の数寄屋丸二階御広間復元整備により管理事務所機能が数寄屋丸2階に移転の際に新たな非常業務兼用アンプを設置した。その後は平成3年に天守閣内の設備改修、平成17年に飯田丸五階櫓内にスピーカーを設置、平成20年の本丸御殿大広間の復元整備時に非常業務兼用アンプを取替えると共に数寄屋丸二階御広間の守衛室及び本丸御殿小姓部屋に非常業務兼用リモコンを設置した。また、屋外は6箇所の外灯に併設の形で設置した。

III 避雷設備

火災予防の観点により、現在天守閣はじめとした再建・復元建造物及び重要文化財建造物にはすべて避雷設備を設置した。

まず、昭和37年から38年にかけて重要文化財建造物に避雷設備が設置され、平成10年に宇土櫓・監物櫓を除き改修した。復元建造物についてはそれぞれの整備時に設置した。また、平成19年には天守閣の鯨が落雷等により破損していることが判明したため、屋根改修工事に伴い新たな避雷針と鯨を設置した。

IV 監視カメラ設備

地震や火災などの災害時と防犯のため、平成11年に本丸地区より離れている重要文化財監物櫓、平成20年に復元整備した本丸御殿（大広間・大台所・数寄屋）内の2箇所に設置した。

V 電気設備

(1) 構内配電設備（図5-24・図5-26）

本丸地区については、天守閣再建時は架空配線（一部地中配線）により配電していたが、昭和49年改修時に配線を地中化している。高圧引込点は現在と同様に頬当御門南側であり、数寄屋丸にキュービクルを設置し、天守閣前管理事務所、数寄屋丸ポンプ室、飯田丸ポンプ室及び新設した竹之丸キュービクルに高圧で送電し各建物に配電していた。その後昭和58年飯田丸、平成3年管理事務所解体に伴い天守閣前にキュービクルを設置した。平成10年に飯田丸のキュービクルを撤去し、平成20年には本丸御殿復元整備に伴い天守閣前キュービクルを撤去し、長局櫓内の新たな電気室にキュービクルと本丸御殿屋内消火栓用非常用発電機を設置した。現在3箇所のキュービクルより各建物に電力を供給している。

二の丸・三の丸地区は、各所より九州電力より供給を受け、全て地下埋設により各建物に電力を供給している。

(2) 外灯・ライトアップ設備（図5-22・図5-23）

外灯設備

夜間の視界確保と防犯のため、本丸地区には天守閣再建当時からあったと考えられるが、昭和49年の改修により現在の灯数に近いものが整備され、行幸坂周辺にも設置されている。二の丸地区、三の丸地区は公園整備に併せて昭和40年代から平成5年までの間に順次新設している。それ以降は老朽化に伴う既存外灯の建替・改修が中心であったが、平成16年以降は西出丸一帯復元整備工事に伴

い増灯されており、現在大小合わせて約 290 本を設置している。

ライトアップ設備

夜間景観の魅力向上のため、昭和 35 年天守閣再建時に天守閣用として電柱式 6 本が設置された。その後長堀用も電柱式により設置されていたと考えられる。昭和 49 年の改修により、宇土櫓と平櫓から東十八間櫓にかけての 2 箇所が電柱式により新設、天守閣用を地上式に改修すると共に増灯及び長堀用も電柱式を増灯した。その後、昭和 62 年に備前堀・馬具櫓・平御櫓用を設置すると共に電柱式のもの全て地上式へと改修した。以降平成 20 年まで順次復元櫓や本丸御殿用を新設し現在の形となっている。

外灯・ライトアップ設備の配線地中化は昭和 49 年以降順次進め、現在は全て地中化している。

(3) 電話設備 (図 5-25・図 5-27)

本丸地区は、昭和 35 年の天守閣前管理事務所新築時に設置されていたと考えられるが不明である。また、平成 2 年に数寄屋丸二階御広間に管理事務所が移転したが、交換機等の設置状況は不明であり、N T T が設置したと考えられる。以降平成 3 年に地下配管ルートが整備され、平成 20 年の本丸御殿復元整備時に数寄屋丸二階御広間内に電話主装置を設置し、本丸地区の電話システムが完成した。

二の丸地区は、昭和 63 年二の丸詰所、平成 5 年二の丸休息所・売店棟の新築時に地下埋設により整備した。

VI 給排水設備 (図 5-28～図 5-31)

主に、便益施設である便所や管理施設の建築時に整備されたと考えられる。

本丸地区は、昭和 35 年の天守閣前便所の新築を皮切りに、昭和 37 年には天守閣内便所、数寄屋丸、飯田丸（現在地と違う）、竹の丸、東竹の丸便所（現在なし）が新築、整備された。昭和 57 年から 62 年に天守閣前、数寄屋丸、飯田丸、竹の丸の各便所建替とこれに伴う配管・枘類の改修を行い、平成 3 年には頼当御門より数寄屋丸及び天守閣前広場に至る給排水配管・枘類の取替を実施した。平成 15 年には本丸御殿復元整備に伴い給水設備の大規模な改修を実施し、数寄屋丸・天守閣系統は給水加圧装置を設置した。また、直圧給水である西櫓御門から北十八間櫓の系統と竹の丸系統も配管類を更新した。

二の丸地区は、芝生広場、催し広場の公園整備に伴い、昭和 45 年に給水配管類を設置し、昭和 48 年二の丸南棟、昭和 54 年催し広場の便所を新築、昭和 60 年二の丸西棟便所建替に伴う改修など昭和 62 年まで給水装置や排水管の埋設等の整備をしており、平成 5 年の便所棟（東棟）を含む休息所売店棟改築に伴う整備を最後に屋外設備の新設・改修は実施していない。

三の丸地区は、昭和 50 年代から平成 5 年にかけての三の丸公園及び史料公園整備の際に三の丸北棟、南棟便所等の新築や旧細川刑部邸移築等に伴い整備した。平成 7 年には三の丸第 1 駐車場内に便所を新設した。

なお、設備については昭和 57 年から 58 年にかけて下水道が整備されたことに伴い、それまでに設置された浄化槽の撤去、汲み取り式便所の下水道直結、汚水槽設置などの改修を実施した。



図 5-14 地下式放水銃（竹の丸）



図 5-15 地下式放水銃内部（竹の丸）



図 5-16 地下式消火栓と格納箱内部（十四間櫓前）



図 5-17 ライトアップ施設（熊本県立美術館分館前）



図 5-18 ライトアップ施設（本丸御殿）



図 5-19 ライトアップ施設（馬具櫓）

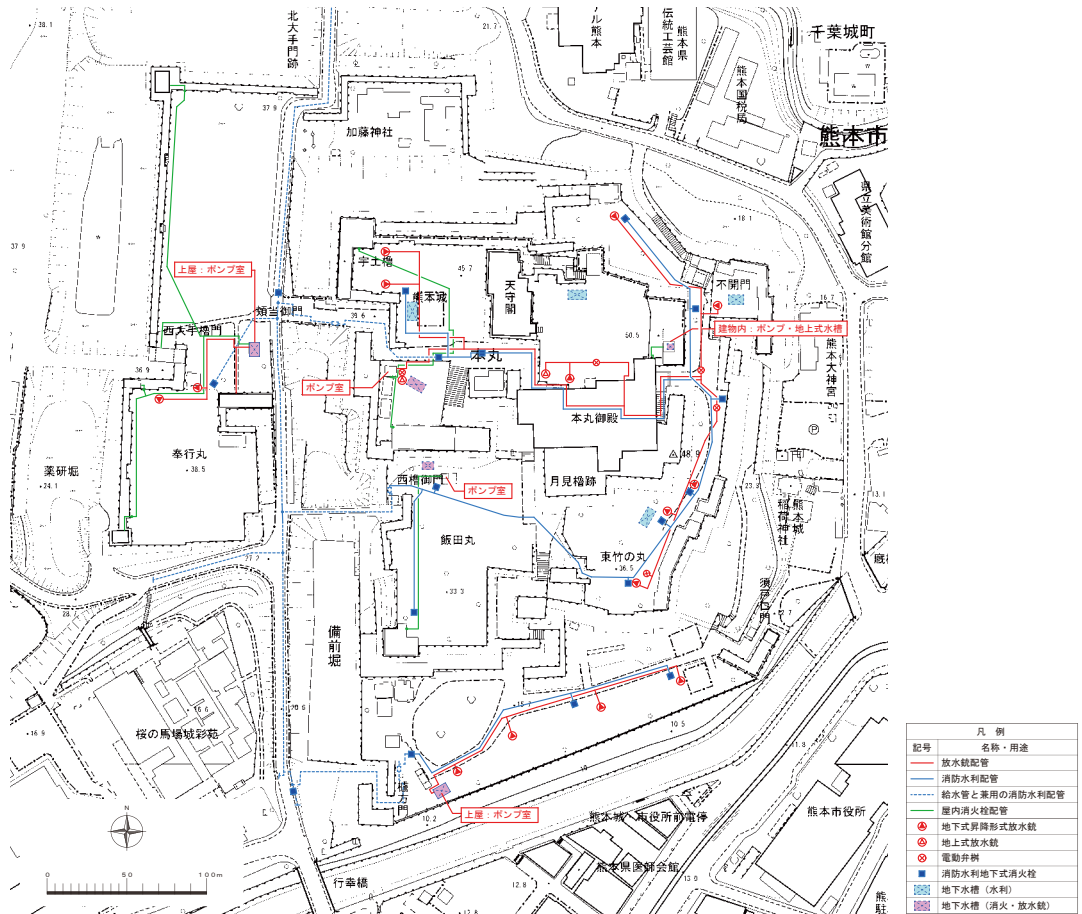


図 5-20 消火・消防設備分布図

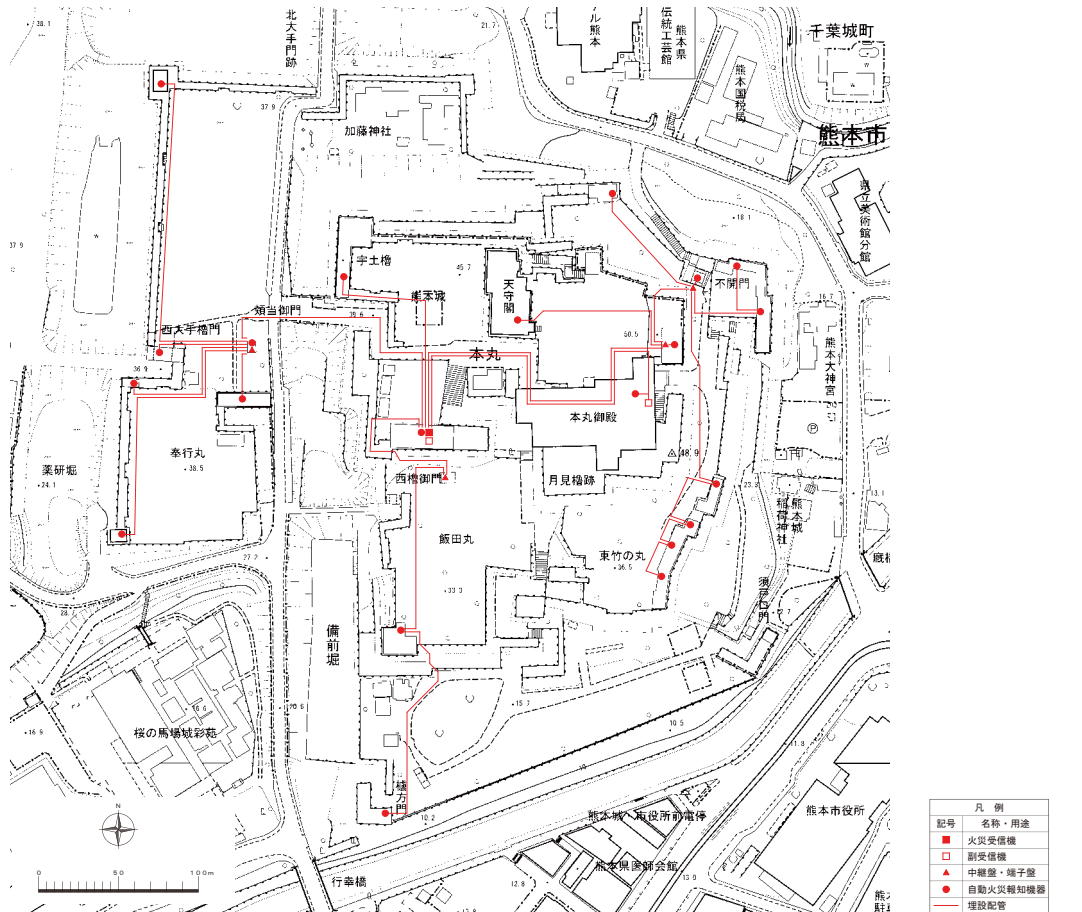


図 5-21 自動火災報知設備分布図

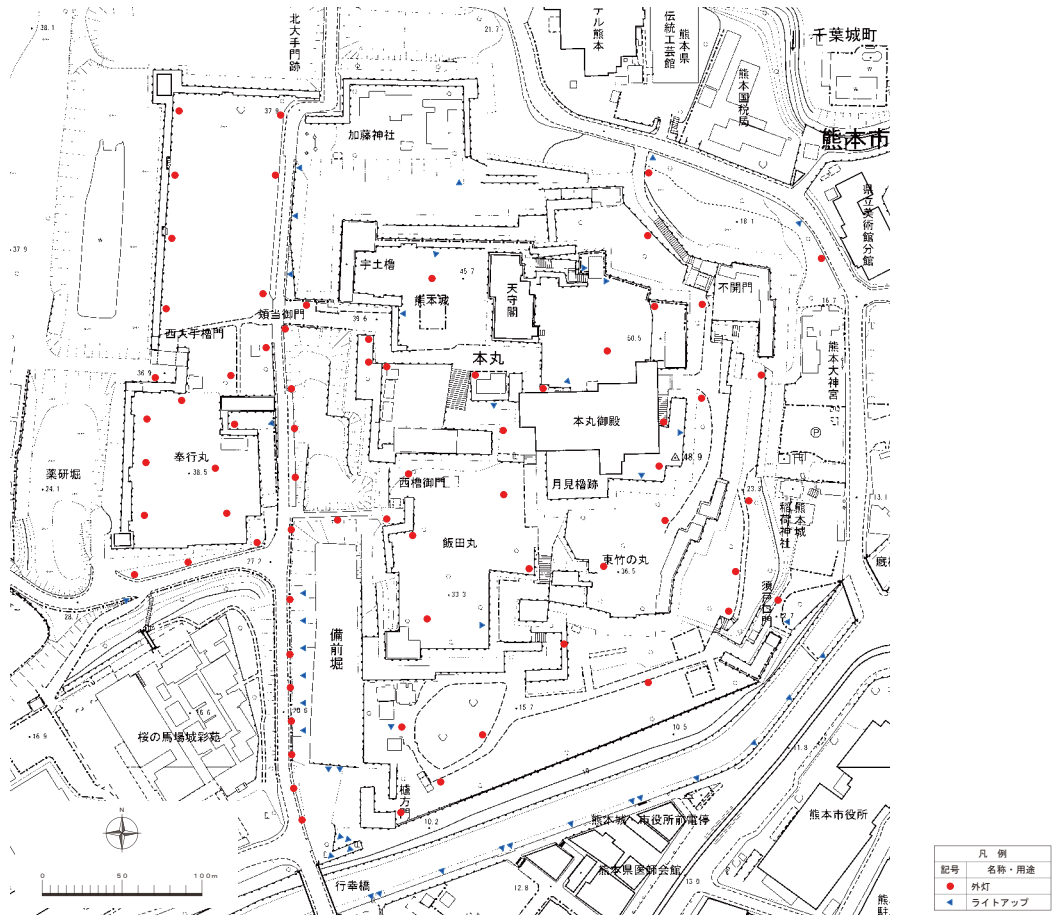


図 5-22 外灯設備分布図 本丸地区



図 5-23 外灯設備分布図 二の丸地区

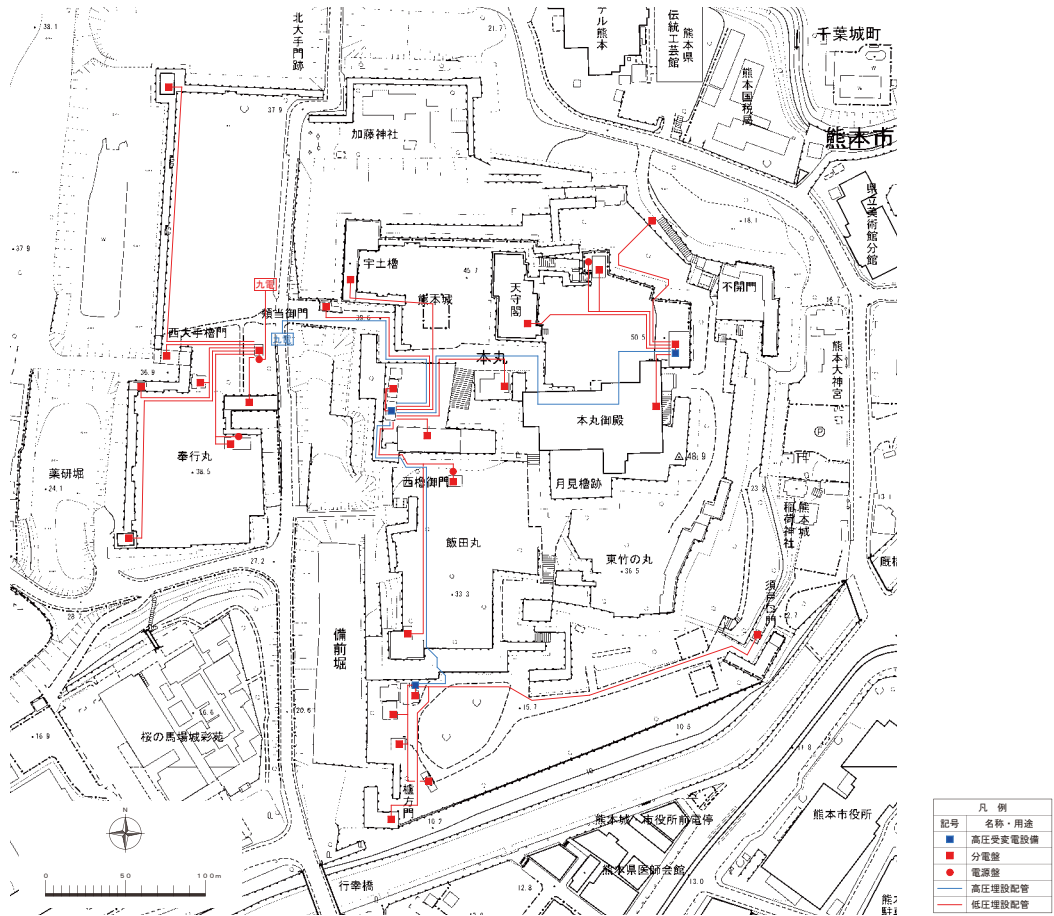


図 5-24 構内配電設備分布図 本丸地区

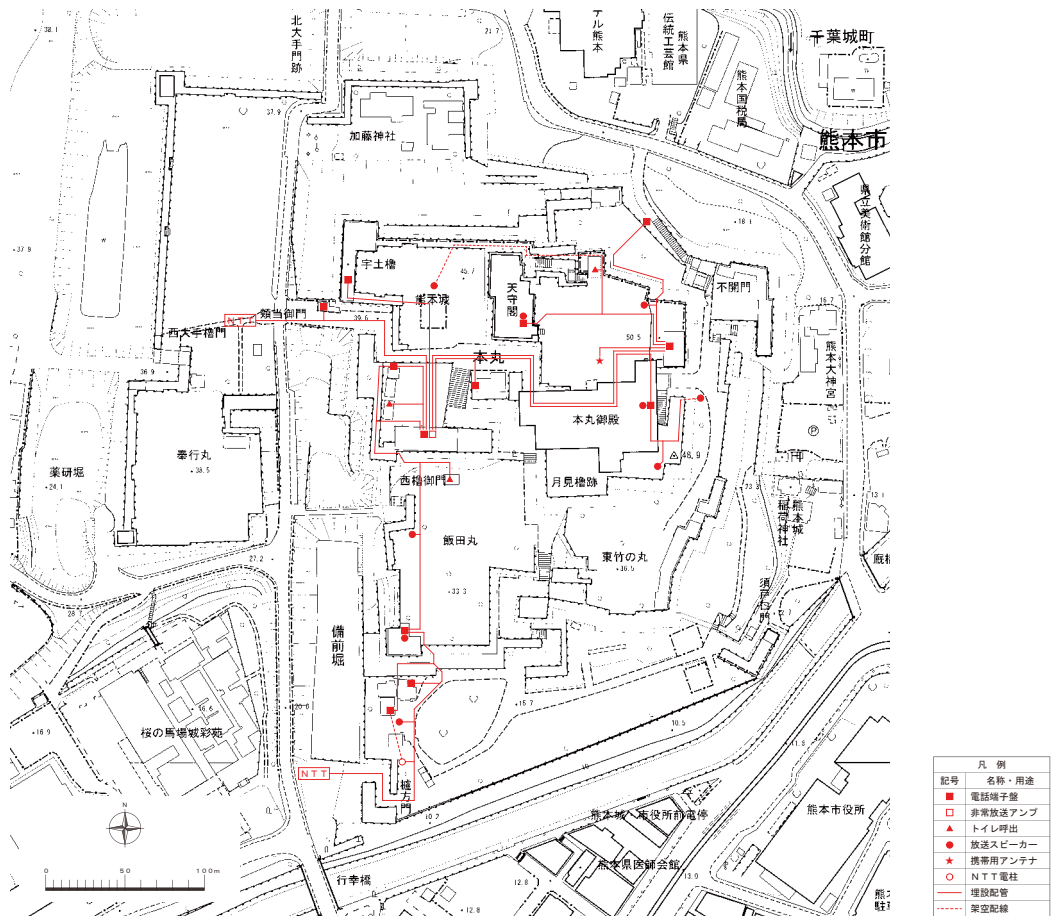


図 5-25 構内情報通信網設備分布図 本丸地区

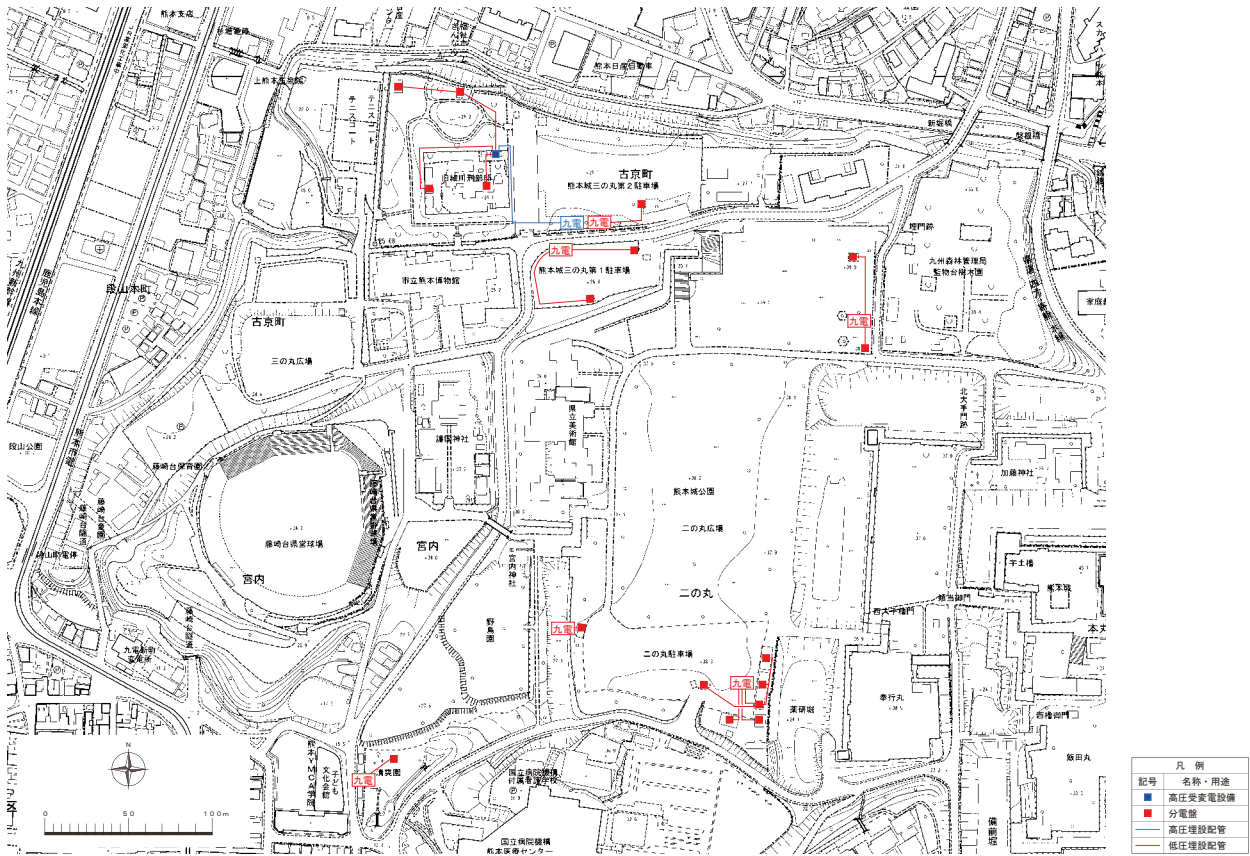


図 5-26 構内配電設備分布図 二の丸地区

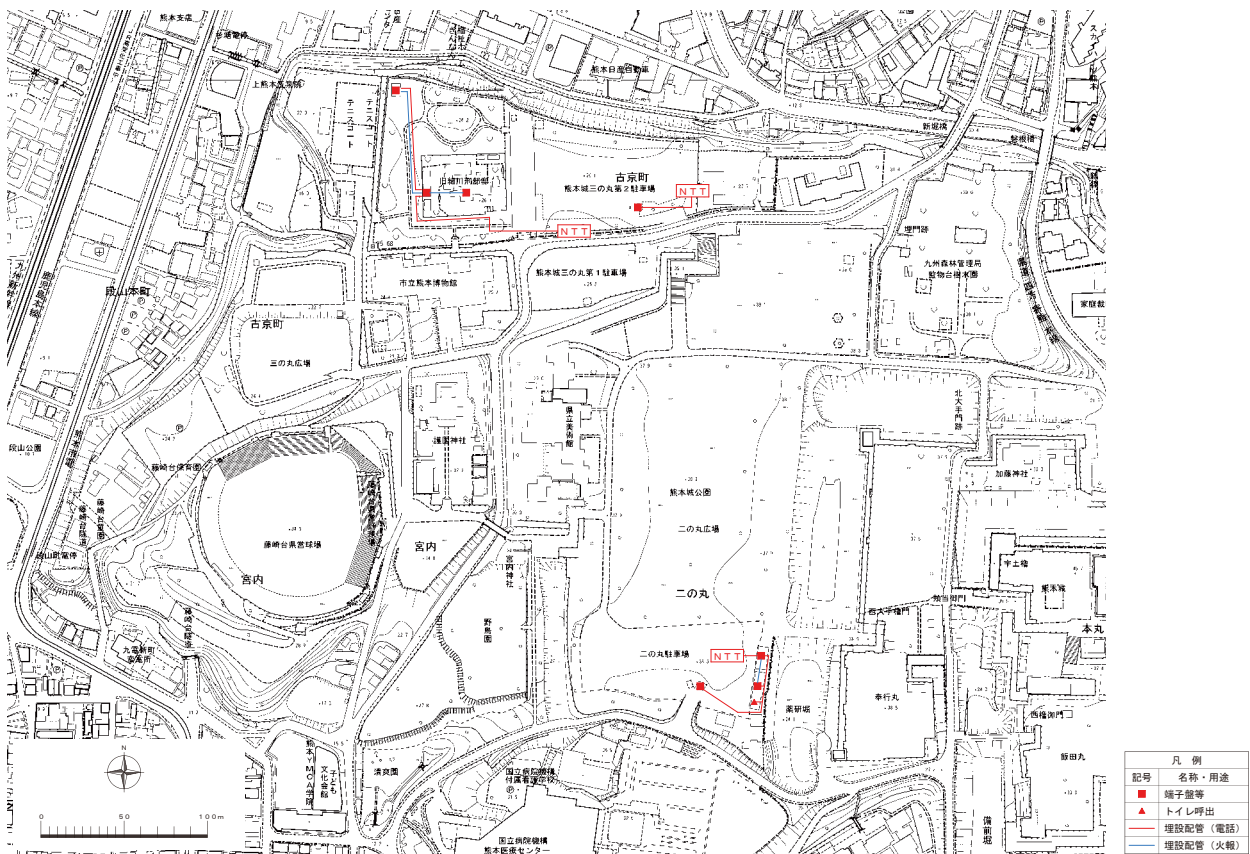


図 5-27 構内情報通信網設備分布図 二の丸地区

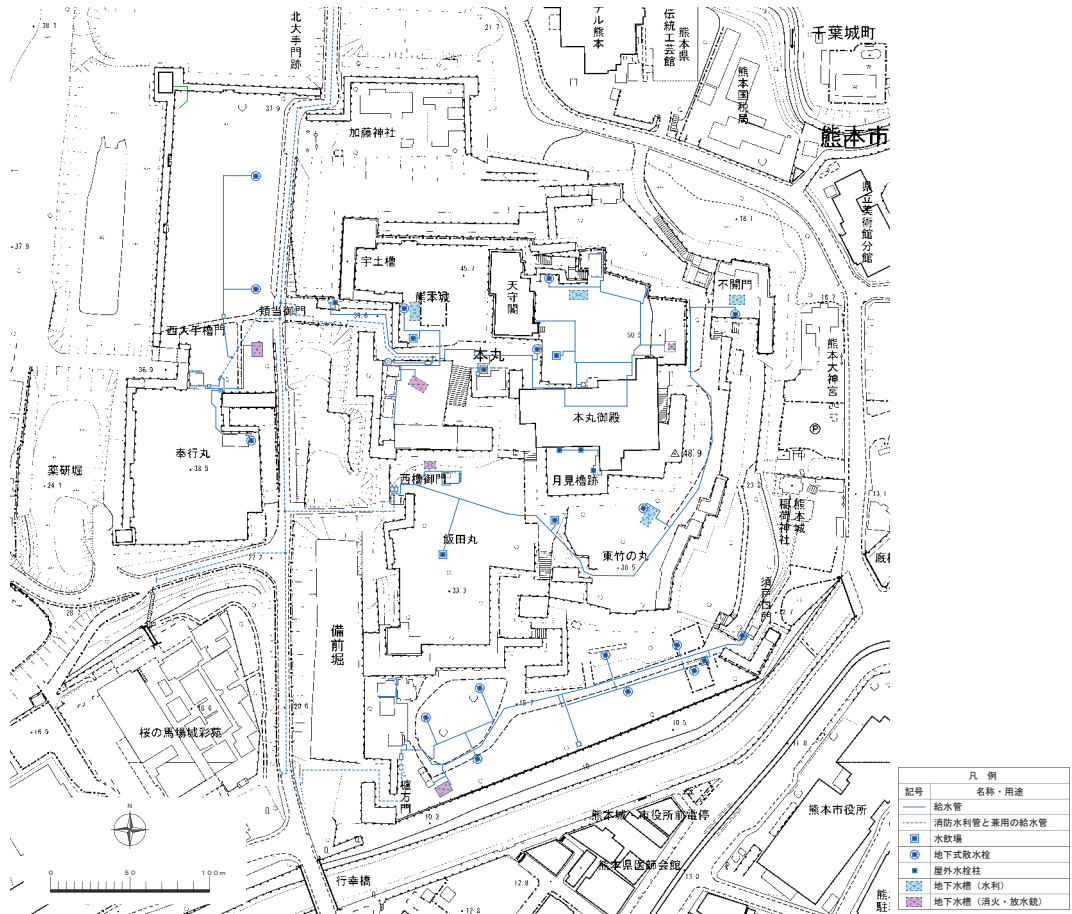


図 5-28 給水設備分布図 本丸地区

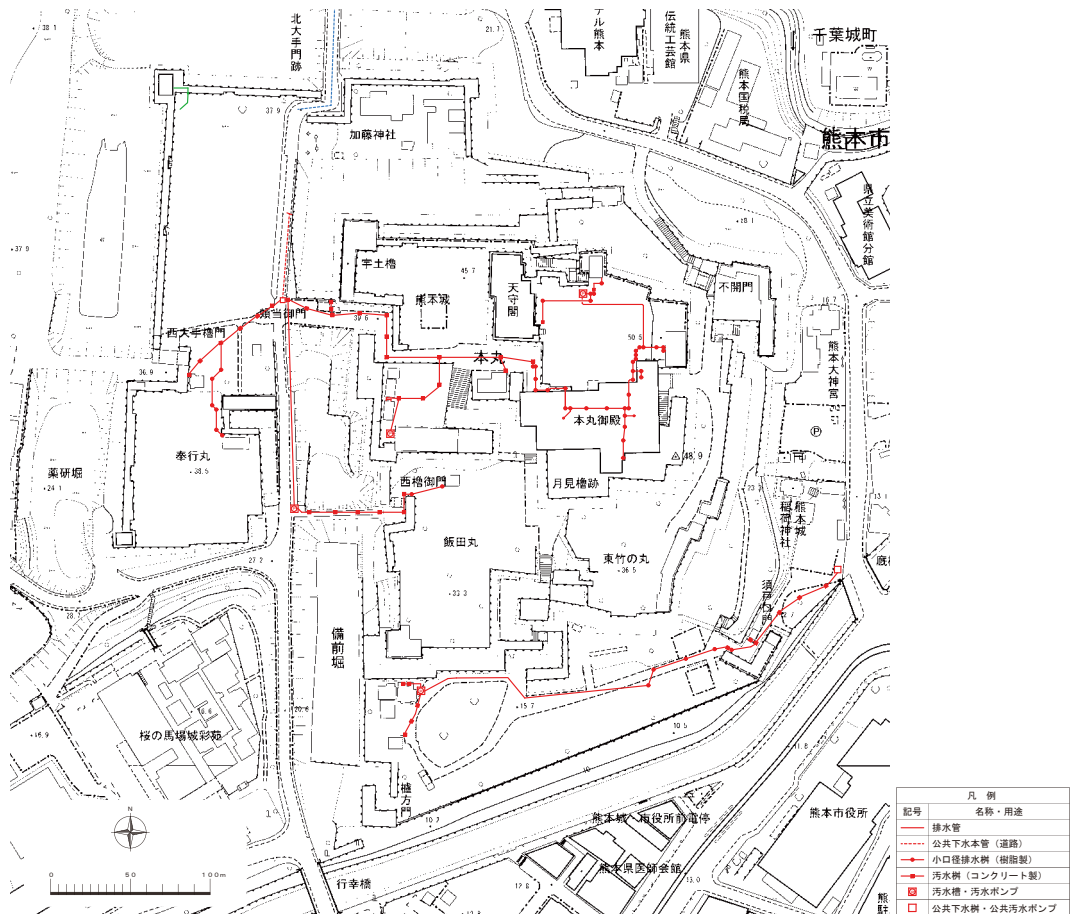


図 5-29 排水設備分布図 本丸地区

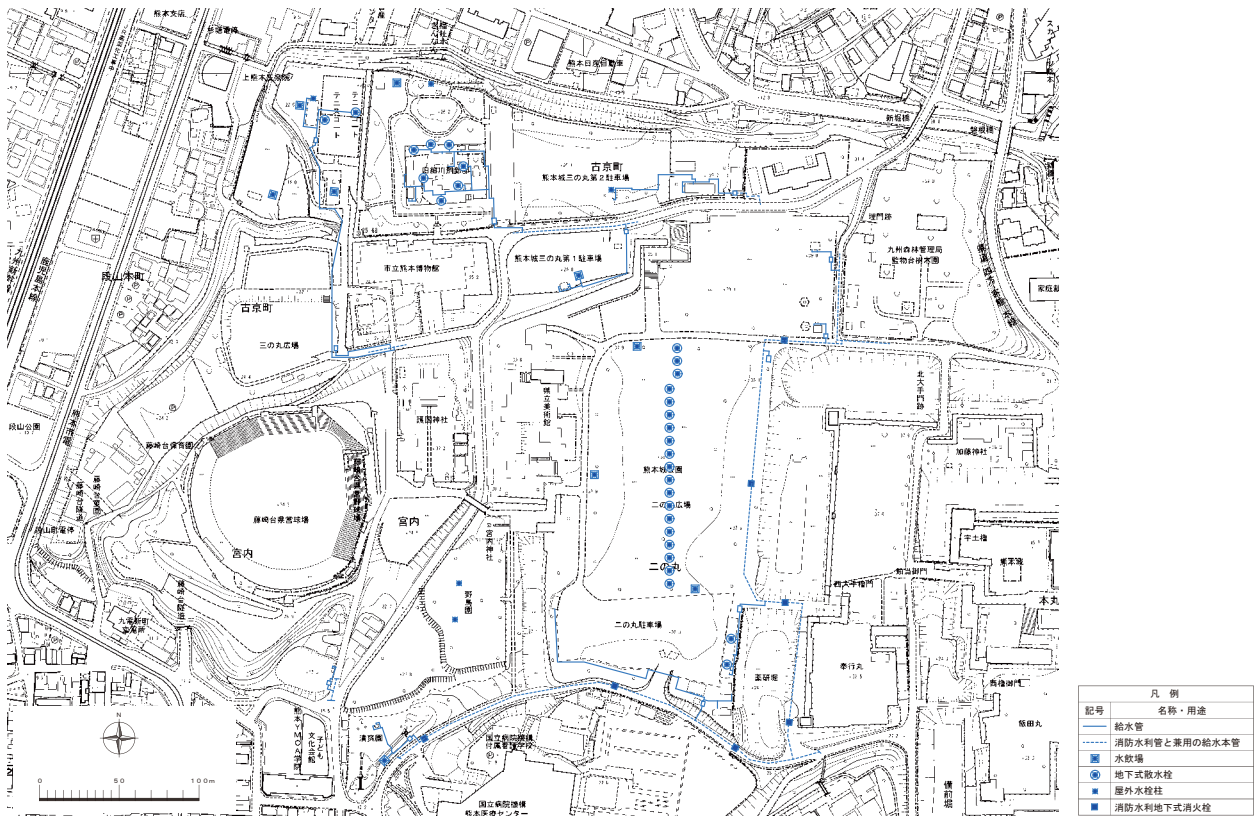


図 5-30 給水設備分布図 二の丸地区

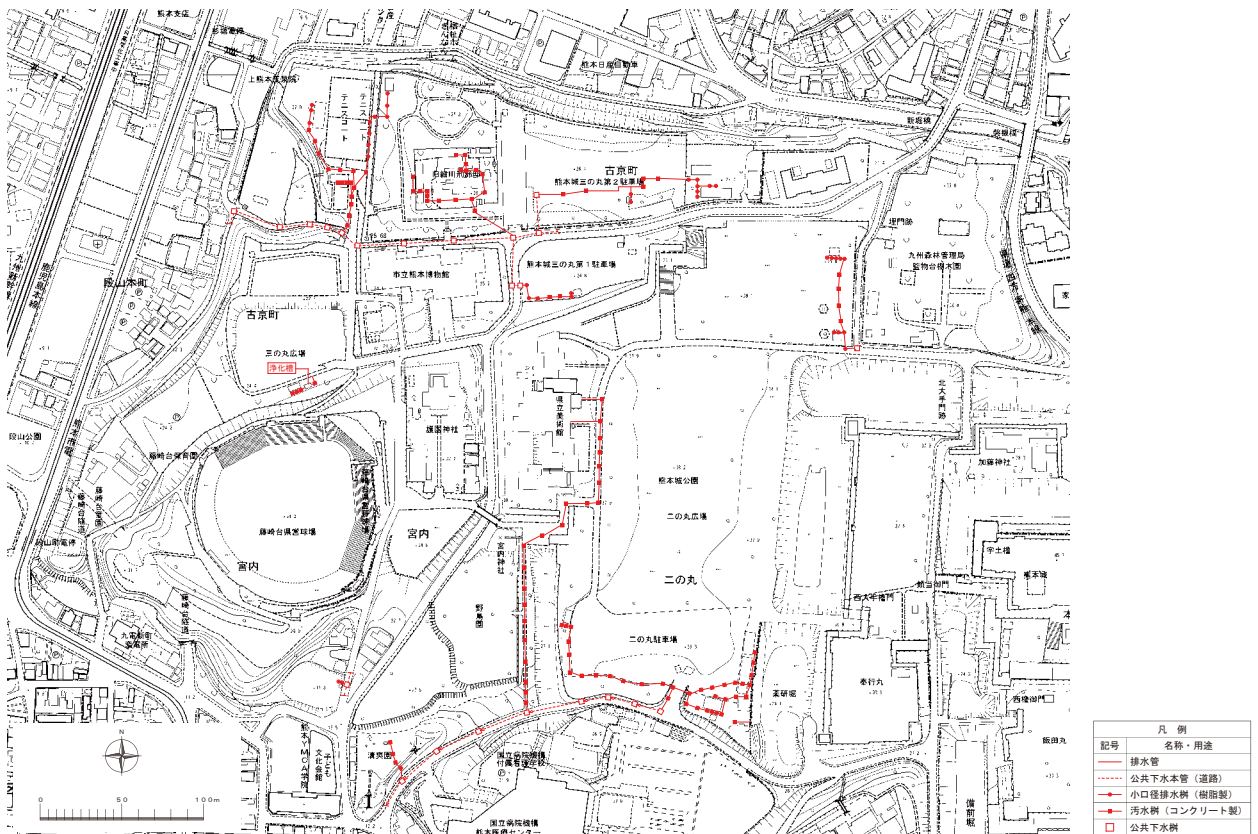


図 5-31 排水設備分布図 二の丸地区

第3節 地区ごとの整備

ここでは、明治以降の地区毎の整備の変遷を年表で示す。また、現在の状況を、整備年と建物の所有が分かる図として示す。

第1項 本丸地区

表 5-1 熊本城年表（本丸地区）

年	西暦	事 項	備 考
明治3年	1870	9月 知事護久が熊本城廃棄を申し出る	『肥後藩国事史料卷十』
		熊本城内を一般に公開する	
明治4年	1871	7月 城内に錦山神社創建	
		8月20日 鎮西鎮台（のち熊本鎮台から第六師団）の設置。本営を熊本に置く	法令全書
明治6年	1873	1月9日 鎮西鎮台から熊本鎮台に改称	法令全書
		9月 月見櫓・取付堀以下大破により撤去	公文別録
明治7年	1874	5月12日 熊本師範学校開校	
		6月 熊本城、陸軍用地に編入される。本丸に鎮台本営が移転 錦山神社を城内より京町に移転	
明治10年	1877	2月19日 天守、本丸御殿その他焼失、広く城下も焼失	
		下馬橋撤去、架替え	
明治21年	1888	5月14日 熊本鎮台、第六師団と改称	
明治22年	1889	7月28日 大地震あり、頼当御門より数寄屋丸の石垣、暗がり門通りを経て師団司令部まで左右の石垣、竹の丸の中程（飯田丸五階櫓台）、下馬橋の石垣、百間石垣の上部が崩れる（金峰山地震）	
明治24年	1891	7月1日 城内梅屋敷に熊本電燈会社が開業	
明治35年	1902	5月 熊本電燈会社解散	
		旧南坂下馬橋通りを改修して行幸坂を新設、城内通路改修	
		下馬橋は下流に架け替えられ行幸橋と改称	
大正6年	1917	第六師団司令部、天守閣前に落成	
昭和2年	1927	谷村計介銅像建立（行幸橋際、書物櫓跡）	
昭和20年	1945	10月 米軍進駐。旧幼年学校や工兵・騎兵・砲兵各隊兵舎に入る	
		10月 宇土櫓一般公開	
昭和27年	1952	6月5日 本丸師団司令部跡に市立熊本博物館開館	
昭和29年	1954	櫓方門崩壊（現加藤神社）	
昭和30年	1955	櫓方門を解体保存	
昭和32年	1957	櫓方門を竹の丸入り口に移築	
昭和35年	1960	9月22日 天守閣再建完成、本丸20ha有料化	
昭和36年	1961	平御櫓再建完成	
昭和37年	1962	加藤神社、現在の位置に移る	
昭和41年	1966	馬具櫓再建完成	
昭和48年	1973	肥後名花園整備完了	
		須戸口門周辺整備完了	
昭和53年	1978	不開門坂道整備工事着手（昭和54年完了）	
昭和55年	1980	西大手門復元整備工事着手（昭和56年完了）	
昭和58年	1983	平御櫓下石垣保護のため坪井川に擁壁石垣築造（59年完成）	
昭和61年	1986	坪井川護岸及び護床工事完了	
昭和63年	1988	備前堀整備工事着手、平成元年3月完成	
平成元年	1989	数寄屋丸二階御広間復元整備工事完成	

平成4年	1992	台風19号による災害復旧（長塀・源之進櫓他・石垣等）工事完了	
		天守閣災害復旧（台風19号）工事着手	
平成9年	1997	南大手門跡石垣及び南坂一部復元整備工事着手（平成10年3月完成）	
		熊本城復元整備計画策定	
平成11年	1999	西出丸一帯復元整備工事着手（平成16年3月完了）	
平成13年	2001	飯田丸一帯復元整備工事着手（平成17年3月完了）	
平成15年	2003	本丸御殿大広間復元整備工事着手（平成20年3月完了）	
平成20年	2008	馬具櫓解体・復元整備工事着手（平成26年9月完了）	

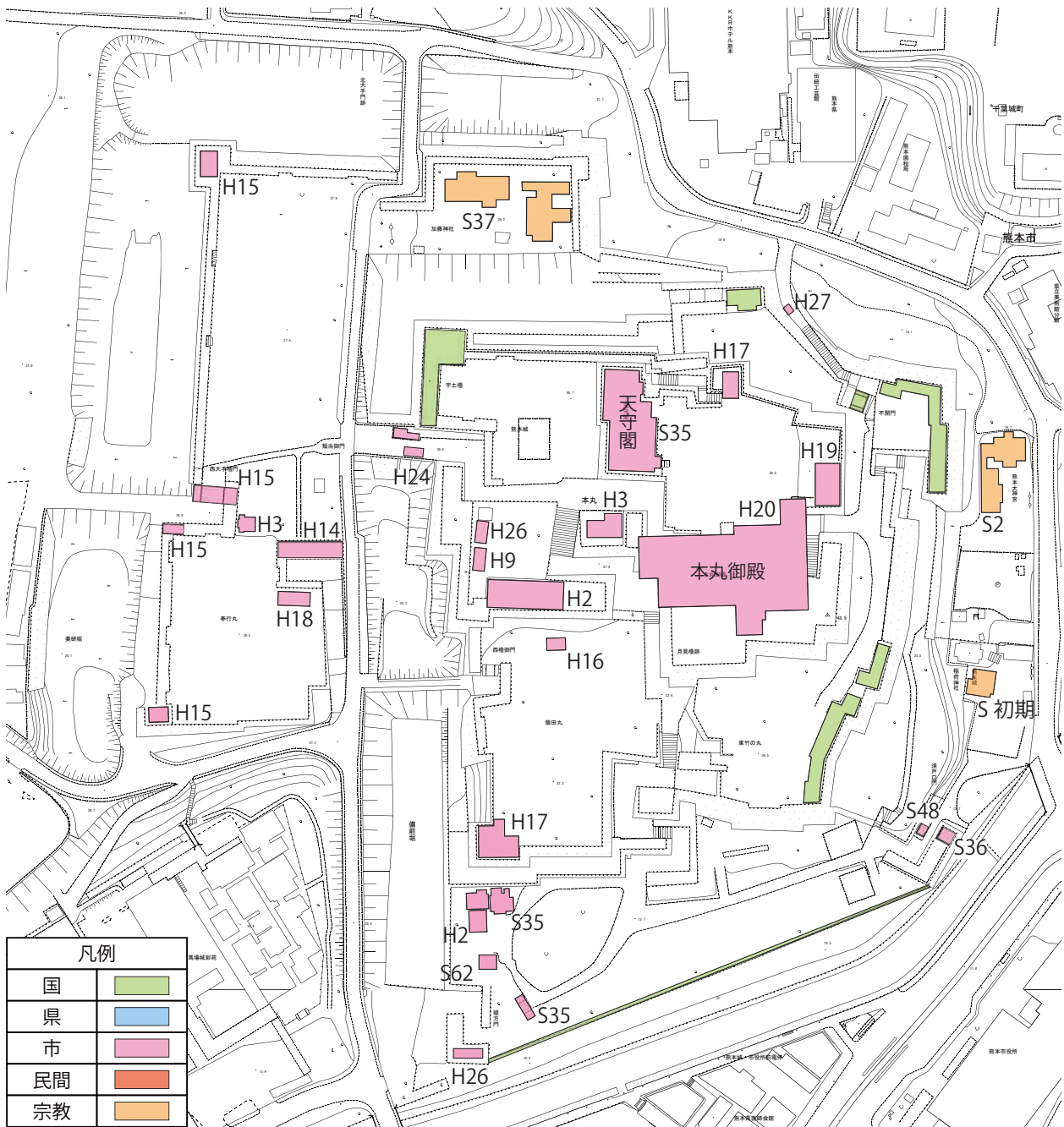


図5-32 本丸地区

※表記の年は現在の建物の建築年

第2項 二の丸地区・三の丸地区

表 5-2 熊本城年表（二の丸地区）

年	西暦	事 項	備 考
明治3年	1870	7月 時習館・郷学校・洋学所・再春館を廃止。藩庁を花畑邸に移す	『肥後藩国事史料卷十』
明治4年	1871	3月 時習館を解崩して兵式操練場とする	『肥後藩国事史料卷十』
明治5年	1872	6月 熊本県庁、二の丸から二本木に移転。白川県と改称	
明治6年	1873	6月 二の丸の操練場の兵営建設始まる	熊本県公文類纂 12-2
明治7年	1874	5月12日 熊本師範学校開校	
明治8年	1875	4月15日 歩兵第十三連隊、二の丸に屯営	
明治9年	1876	10月24日 神風連の乱	
		砲兵第六大隊の新兵舎が備前屋敷跡（現在の合同庁舎付近）に落成し、移転。予備砲兵第三大隊も砲兵第六大隊の兵舎へ同居	
明治19年	1886	清爽園整備	
明治27年	1894	4月20日 歩兵第二三連隊が花畑旧藩邸に兵営移転	
明治30年	1897	9月 監物台に陸軍幼年学校設置（昭和2年廃止）	
大正14年	1925	5月24日 歩兵第十三連隊、渡鹿の新兵舎に移る	
大正15年	1926	6月15日 新町清爽園開場式	
昭和2年	1927	3月31日 陸軍幼年学校廃校	
		7月30日 熊本陸軍教導学校が城内に開校	
昭和14年	1939	4月1日 熊本陸軍幼年学校が熊本陸軍教導学校内に開校（15年清水町に移転）	
昭和18年	1943	8月1日 熊本陸軍教導学校が熊本予備士官学校となる	
昭和20年	1945	10月 米軍進駐。旧幼年学校や工兵・騎兵・砲兵各隊兵舎に入る	
昭和27年	1952	11月8日 陸軍幼年学校跡に監物台樹木園開園	
昭和37年	1962	4月11日 熊本県立第二高校が二の丸に開校	
昭和42年	1967	二の丸広場園路、駐車場造成工事に着手（都市公園整備）	
昭和43年	1968	県立第二高校が健軍東町の新校舎に移転	
昭和51年	1976	3月4日 二の丸に熊本県立美術館開館	
昭和52年	1977	二の丸御門跡整備工事完成	
平成元年	1989	埋門（冠木門形式にて）再建整備工事完成	
平成4年	1992	二の丸御門周辺整備（第二期）工事完成	

表 5-3 熊本城年表（三の丸地区）

年	西暦	事 項	備 考
明治11年	1878	藤崎宮、井川淵町に移転	
明治30年	1897	8月 野戦砲兵第六連第一大隊兵営が大江村に移転	
昭和3年	1928	電車敷設（辛島町一段山線）のため段山の基部を掘り割る	
昭和20年	1945	10月 米軍進駐。旧幼年学校や工兵・騎兵・砲兵各隊兵舎に入る	
		三の丸に化血研発足	
昭和35年	1960	10月15日 藤崎台県営野球場完工	
昭和53年	1978	4月1日 熊本城内古京町に熊本市立熊本博物館が完成	
昭和54年	1979	三の丸森本儀太夫預櫓跡周辺整備工事完成	
昭和58年	1983	三の丸第1駐車場整備	
平成元年	1989	化血研敷地を熊本市が購入（～平成4年度）	
		三の丸広場整備	

平成2年	1990	三の丸地区に県指定重文「旧細川刑部邸」の移築復元工事着手	
平成5年	1993	9月11日 県指定重要文化財「旧細川刑部邸」移築復元、公開開始	
平成23年	2011	三の丸第2駐車場を暫定整備	

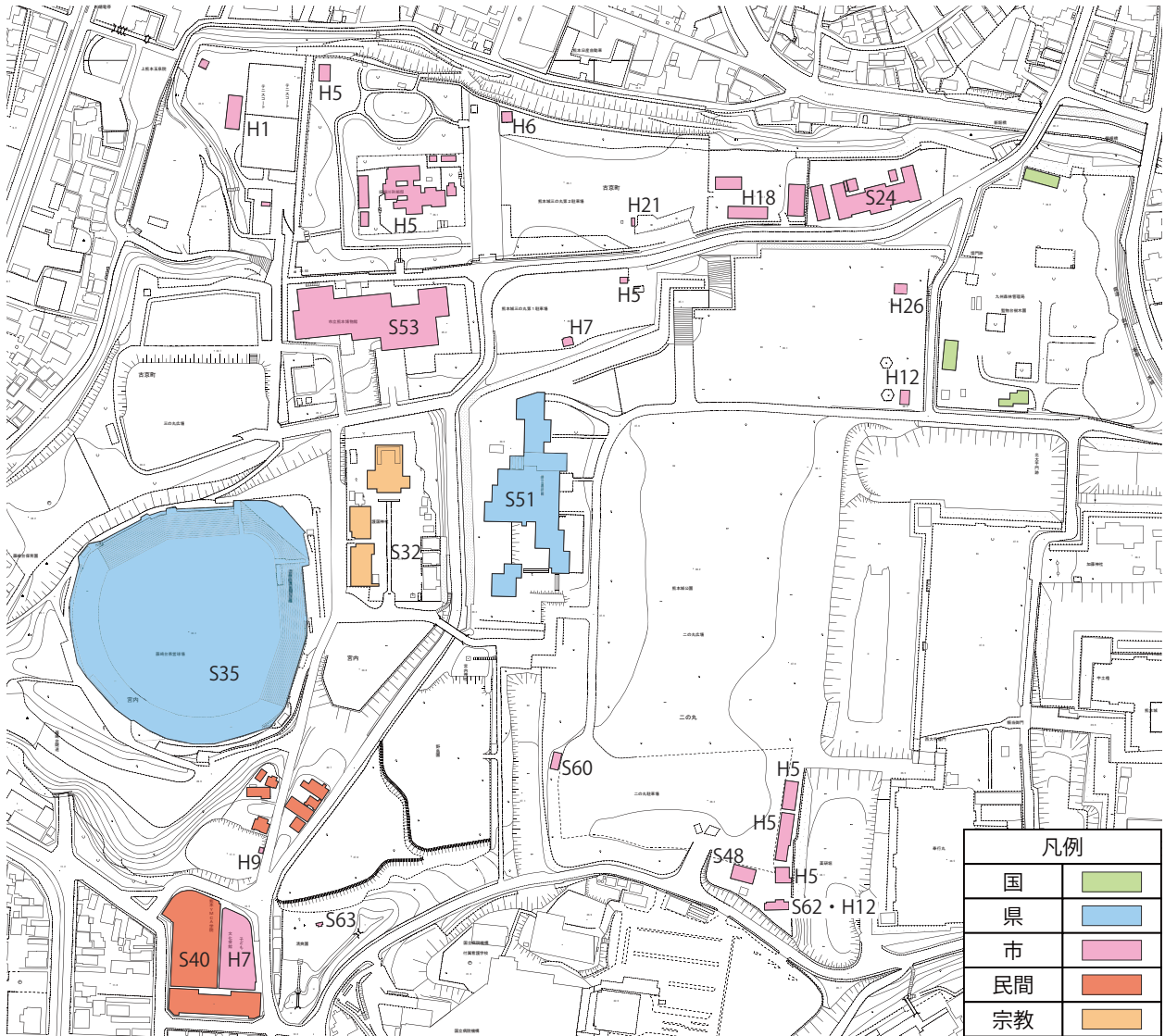


図 5-33 二の丸地区・三の丸地区

※表記の年は現在の建物の建築年

第3項 古城地区

表 5-4 熊本城年表（古城地区）

年	西暦	事 項	備 考
明治3年	1870	10月 古城医学校開校	
明治4年	1871	9月 洋学校開校	
明治6年	1873	6月30日 鎮西兵团病院（鎮西鎮台病院）を熊本鎮台病院に改称	
明治7年	1874	5月12日 熊本師範学校開校	
明治8年	1875	3月 古城医学校、廃校	
		11月24日 県庁が二本木より古城病院跡に移転	
明治9年	1876	9月 熊本地方裁判所設置	
		9月 洋学校廃止。洋学校跡に臨時裁判所、県警本部を設置	
		砲兵第六大隊の新兵舎が備前屋敷跡（現在の合同庁舎付近）に落成し、移転。予備砲兵第三大隊も砲兵第六大隊の兵舎へ同居	
明治11年	1878	裁判所、京町に移転	
明治17年	1884	7月1日 歩兵第十三連隊の一部を分離し、歩兵第二三連隊第一大隊を設置。山砲兵第六大隊を砲兵第六連隊と改称し、元備前屋敷に設置。	
明治20年	1887	1月1日 熊本県庁、古城より南千反畑町に移転	
明治32年	1899	桜橋架橋、城外と古城の北側を結ぶ	
昭和34年	1959	8月20日 熊本県営熊本城プール完工式	
昭和35年	1960	5月14日 熊本県立第一高校（古城町）落成式	
昭和36年	1961	1月16日 合同庁舎完成	
		古城堀端公園整備	
平成元年	1989	古城堀復元のため発掘調査の実施及び一部浚渫工事の実施	
平成23年	2011	3月 桜の馬場城彩苑オープン	
平成27年	2015	3月 合同庁舎が熊本駅周辺地区へ移転	



凡例	
国	■
県	■
市	■
民間	■
宗教	■

図 5-34 古城地区
※表記の年は現在の建物の建築年

第4項 千葉城地区

表 5-5 熊本城年表（千葉城地区）

年	西暦	事 項	備 考
明治9年	1876	4月17日 工兵第六小隊が発足、花畑邸内に兵舎が置かれていたが失火のため全焼し、棒庵坂下仮兵舎へ移転	
明治22年	1888	6月13日 工兵隊第六大隊が千葉城から大江村渡鹿の兵営に移転	
明治23年	1890	4月1日 憲兵隊設置	
昭和4年	1929	6月29日 熊本偕行社、千葉城跡に新築落成式	
昭和20年	1945	10月 米軍進駐。旧幼年学校や工兵・騎兵・砲兵各隊兵舎に入る	
昭和33年	1957	12月 熊本県立図書館が千葉城町に完成（昭和60年、出水町に移転開館）	
昭和38年	1963	3月1日 NHK熊本放送開館が千葉城町の旧偕行社跡に完成	
昭和47年	1972	高橋公園整備	
昭和57年	1982	8月10日 熊本県伝統工芸館開館	
平成4年	1992	熊本県立美術館分館開館	



図 5-35 千葉城地区

※表記の年は現在の建物の建築年

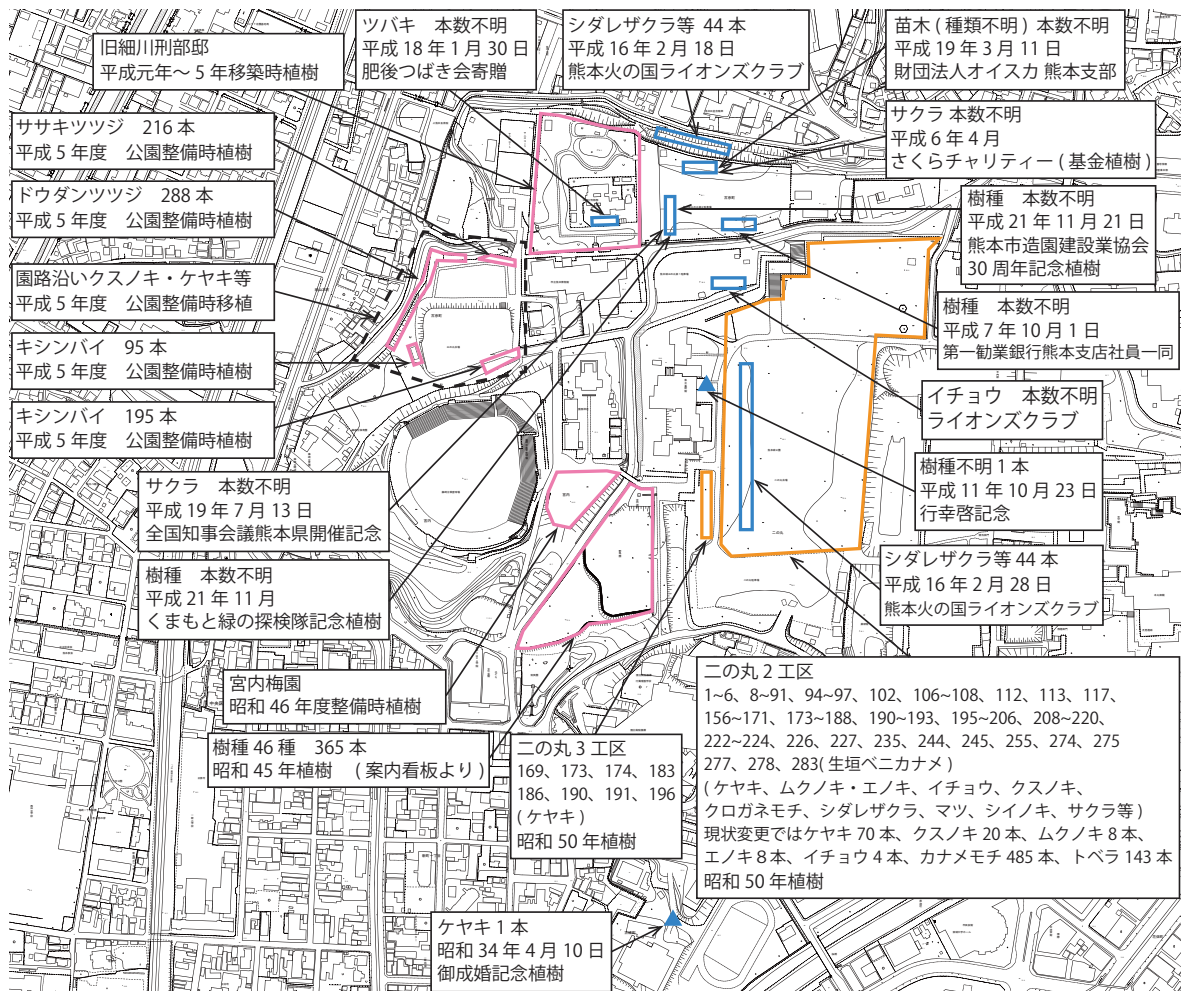
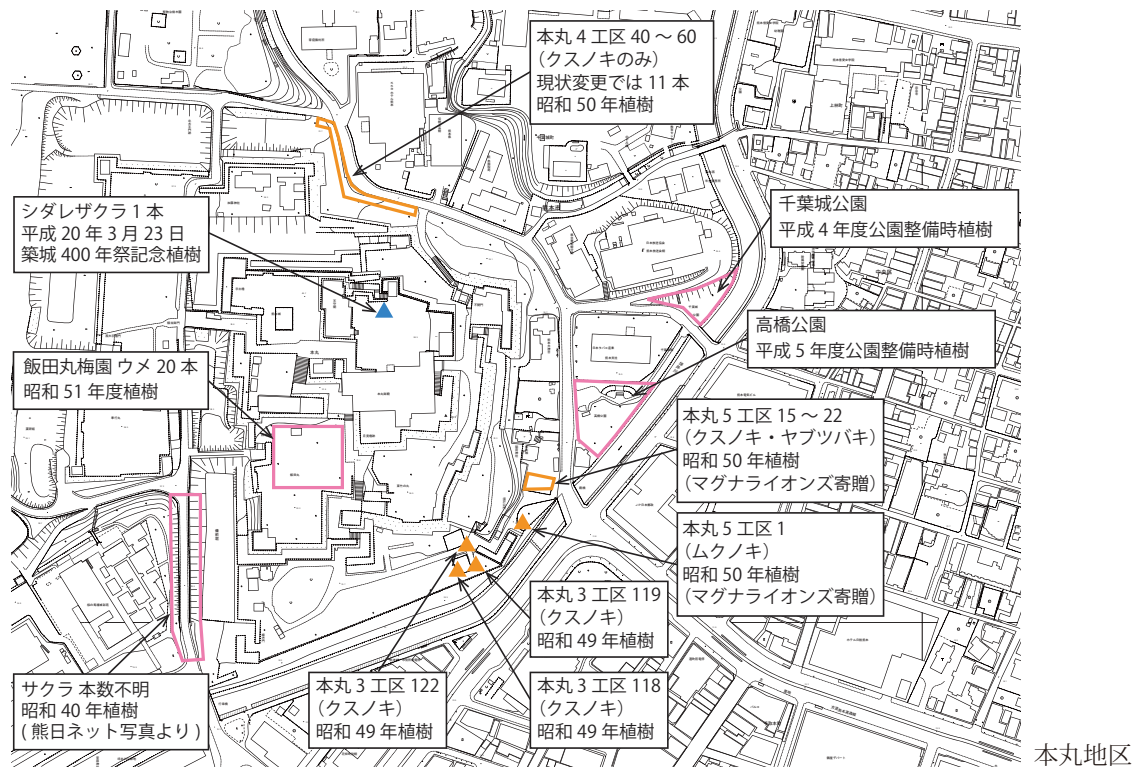
第4節 樹木

現在の熊本城公園は、昭和21年に千葉城緑地として都市計画決定され、名称変更、区域変更等ありながら、昭和37年に熊本城公園に名称変更された。昭和42年には二の丸地区の事業決定、昭和49年には三の丸地区の事業決定がなされ、公園整備や記念植樹などにより現在の状態となった。

ここには、記録等見つかったものについて示す。

表5-6 熊本城植樹年表

年代	内容	備考
昭和34年4月10日	県立第一高等学校にケヤキ植樹 本数不明	御成婚奉祝記念植樹
昭和40年度	行幸坂にサクラ植樹 本数不明	
昭和45年	野鳥園整備として46種365本の樹木を植樹	
昭和46年	宮内梅園整備としてウメ植樹 本数不明	
昭和49年	須戸口門南西にクスノキ3本植樹	
昭和50年	二の丸広場にケヤキ70本、クスノキ20本、ムクノキ8本、エノキ8本、イチヨウ4本、カナメモチ485本、トベラ143本植樹 小公園にクスノキ11本植樹 須戸口門前にムクノキ1本、クスノキ・ヤブツバキ8本植樹	小公園：マグナライオンズ寄贈
昭和51年度	飯田丸梅園にウメ20本植樹	
平成4年度	千葉城公園整備として複数樹木植樹	
平成元年～5年	旧細川刑部邸移築時に複数樹木植樹	
平成5年度	三の丸公園整備として サツキツツジ216本、ドウダンツツジ288本、キンシバイ195本、クスノキ・ケヤキ等植樹 高橋公園整備としてツツジ、イロハモミジ、クスノキ、ソメイヨシノ等44本植樹	
平成6年4月	三の丸史料公園北側にサクラ植樹 本数不明	さくらチャリティー (基金植樹)
平成7年10月1日	三の丸史料公園南側に植樹 樹種・本数不明	第一勧業銀行熊本支店社員一同
平成11年10月23日	県立美術館東側に1本植樹 樹種不明	行幸啓記念
平成16年2月28日	二の丸芝生広場・三の丸史料公園北側法面にシダレザクラ等44本植樹	熊本火の国ライオンズクラブ
平成18年1月30日	旧細川刑部邸にツバキ植樹 本数不明	肥後つばき会寄贈
平成19年3月11日	三の丸史料公園北側に苗木植樹 樹種・本数不明	財団法人オイスカ熊本支部
平成19年7月13日	三の丸史料公園西側にサクラ植樹 本数不明	全国知事会議熊本県開催記念
平成20年3月23日	天守前広場にシダレザクラ1本植樹	築城400年記念植樹
平成21年11月	三の丸史料公園西側に植樹 樹種・本数不明	くまもと緑の探検記念植樹
平成21年11月21日	三の丸史料公園西側に植樹 樹種・本数不明	熊本市造園建設業協会30周年記念植樹



二の丸地区・三の丸地区

- ▲ or □: 資料より植樹したと確認できる樹木、または範囲
- △ or ○: 植樹した可能性のある樹木、または範囲
- ▲ or □: 記念碑より植樹したと確認できる樹木、または範囲

図 5-36 熊本城植樹位置図

※工区名と番号はH24～25年度実施した樹木調査における台帳番号

第5章 注

- 1) 文化財保護法に基づく現状変更申請による。
- 2) 特別史跡熊本城跡保存活用計画（平成28年度改訂予定）による。
- 3) 文化財保護法に基づく現状変更申請による。
- 4) 文化財保護法に基づく現状変更申請及び「熊本城不開門坂道復元工事報告書」（1979）による。
- 5) 文化財保護法に基づく現状変更申請及び「熊本城不開門坂道復元工事報告書」（1979）による。

〔主要参考文献・参考資料〕

- ※1 熊本市『新熊本市史 史料編 第九巻 新聞下現代』1993
- ※2 熊本城整備研究会「熊本城整備に関する報告書」1974
- ※3 熊本城整備研究会「熊本城整備に関する報告書Ⅱ」1979
- ※4 熊本市教育委員会『特別史跡熊本城跡保存管理計画策定報告書』1982
- ※5 財団法人熊本開発研究センター「フィールド・ミュージアム熊本城」1989
- ※6 熊本城の総合整備計画（平成4年度）
- ※7 熊本市企画調整課『熊本城復元整備計画』1997
- ※8 熊本市『特別史跡熊本城跡保存活用計画』（2017改訂予定）
- ※9 熊本博物館公式ホームページ
- ※10 公益財団法人熊本城顕彰会『熊本城復刊第四十八号』2002
- ※11 文化財保護法に基づく現状変更申請
- ※12 熊本城教育委員会『熊本城不開門坂道復元工事報告書』1980
- ※13 熊本市熊本城調査研究センター『熊本城跡発掘調査報告書1－飯田丸の調査－』2014
- ※14 熊本市役所『熊本城再建記念 躍進熊本大博覧会誌』1965